

**JobCenter**  
R12.8

〈インストールガイド〉

- Windows 2000, Windows XP, Windows Server 2003, Windows Server 2008 は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- UNIX は、X/Open カンパニーリミテッドが独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。
- Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。
- SAP, ERP, BI は、SAP AG の商標もしくは登録商標です。
- HP-UX は、米国 Hewlett-Packard 社の商標です。
- AIX は、米国 IBM Corporation の商標です。
- NQS は、NASA Ames Research Center のために Sterling Software 社が開発した Network Queuing System です。
- その他、本書に記載されているソフトウェア製品およびハードウェア製品の名称は、関係各社の登録商標または商標です。

なお、本書内では、®、TM、©の記号は省略しています。

#### 輸出する際の注意事項

本製品(ソフトウェア)は、外国為替令に定める提供を規制される技術に該当いたしますので、日本国外へ持ち出す際には日本国政府の役務取引許可申請等必要な手続きをお取り下さい。

許可手続き等にあたり特別な資料等が必要な場合には、お買い上げの販売店またはお近くの当社営業拠点にご相談下さい。

# はじめに

本書は、JobCenter のインストールやバージョンアップ方法などについて説明することを目的としています。なお、本書内に記載されている画面例と実際の画面とは異なることがありますので注意してください。

## • 読み方

JobCenter を新規にインストール、またはバージョンアップされる場合

→ 本書をお読みください。

JobCenter を初めて利用される場合

→ クイックスタート編を目次に従いお読みください。

JobCenter の基本的な操作方法を理解したい場合

→ 基本操作ガイドを目次に従いお読みください。

環境の構築や各種機能の設定を理解したい場合

→ 環境構築ガイドを参照してください。

その他機能についてお知りになりたい場合

→ 関連マニュアルの内容をお読みいただき、目的のマニュアルを参照してください。

## • 凡例

本書内での凡例を紹介します。



: 気をつけて読んでいただきたい内容です。

**注** : 本文中につけた注の説明

**備考** : 本文中の補足説明

     : UNIX 版のインストール画面の説明では、\_\_部分(下線部分)はキーボードからの入力を示します。

## • 関連マニュアル

JobCenter に関するマニュアルです。JobCenter メディア内に格納されています。

最新のマニュアルは、**JobCenter 製品サイトのダウンロードのページ**を参照してください。

URL : <http://h50146.www5.hp.com/doc/manual/openview/jc.html>

資料名	概要
JobCenter インストールガイド	本書
JobCenter クイックスタート編	初めて JobCenter をお使いになる方を対象に、JobCenter の基本的な機能と一通りの操作を説明しています。
JobCenter 基本操作ガイド	JobCenter の基本機能、操作方法について説明しています。
JobCenter 環境構築ガイド	JobCenter を利用するために必要な環境の構築、環境の移行や他製品との連携などの各種設定方法について説明しています。
JobCenter NQS 機能利用の手引き	JobCenter の基盤である NQS の機能を JobCenter から利用する方法について説明しています。
JobCenter クラスタ機能利用の手引き	クラスタシステムで JobCenter を操作するための連携方法について説明しています。
JobCenter SAP 機能利用の手引き	JobCenter を SAP と連携させるための方法について説明しています。
JobCenter インポート・エクスポート機能利用の手引き	ユーザ環境のバックアップや環境の移行の際に必要な、JobCenter 上のジョブネットワーク定義、スケジュール定義およびカレンダー定義のインポート・エクスポート機能について説明しています。
JobCenter 操作・実行ログ機能利用の手引き	JobCenter CL/Win からの操作ログ、ジョブネットワーク実行ログ取得機能および設定方法について説明しています。
JobCenter テンプレートガイド	JobCenter に標準添付されている各種テンプレートの利用方法について説明しています。
JobCenter コマンドリファレンス	GUI と同様にジョブネットワークの投入、実行状況の参照などをコマンドラインから行うために、JobCenter で用意されているコマンドについて説明しています。
JobCenter UCXSingle ジョブ利用ガイド	JobCenter を UCXSingle と連携させるための方法について説明しています。

## • 改版履歴

版数	変更日付	項目	形式	変更内容
1	2009/04/28	新規作成	—	第 1 版

# 目 次

<b>1.</b>	<b>JobCenterの動作環境</b> .....	<b>7</b>
<b>2.</b>	<b>インストール</b> .....	<b>8</b>
2.1	インストールの準備をする .....	9
2.1.1	注意事項の事前確認 .....	9
2.1.2	ネットワークを設定する .....	14
2.1.3	マシンIDを割り当てる .....	15
2.2	LicenseManagerをインストールする .....	16
2.2.1	HP-UX版 .....	17
2.2.2	Solaris版 .....	20
2.2.3	Linux版 .....	23
2.2.4	AIX版 .....	24
2.2.5	Windows版 .....	25
2.3	コードワードを登録する .....	29
2.3.1	コードワードの登録作業 .....	29
2.3.2	LicenseManagerインストール後に出力されるメッセージ .....	31
2.4	JobCenter MG/SVをインストールする .....	33
2.4.1	HP-UX版 .....	33
2.4.2	Solaris版 .....	34
2.4.3	Linux版 .....	35
2.4.4	AIX版 .....	37
2.4.5	Windows版 .....	38
2.5	JobCenter CL/Winをインストールする .....	54
2.5.1	通常インストール .....	54
<b>3.</b>	<b>実行環境のセットアップ(UNIX版)</b> .....	<b>62</b>

## 4. アンインストール ..... 70

### 4.1 LicenseManagerをアンインストールする ..... 71

4.1.1 UNIX版 ..... 71

4.1.2 Windows版 ..... 73

### 4.2 JobCenter MG, JobCenter SVをアンインストールする ..... 74

4.2.1 UNIX版 ..... 74

4.2.2 Windows版 ..... 76

### 4.3 JobCenter CL/Winをアンインストールする ..... 78

4.3.1 パッケージを削除する ..... 78

4.3.2 レジストリ関連のデータを削除する ..... 78

## 5. バージョンアップ ..... 79

### 5.1 UNIX版 ..... 80

5.1.1 バージョンアップ ..... 80

5.1.2 NQS関連のデータ引き継ぎ ..... 81

### 5.2 Windows版 ..... 82

5.2.1 バージョンアップ ..... 82

5.2.2 NQS関連のデータ引き継ぎ ..... 83

## 6. バージョンの確認方法 ..... 85

### 6.1 UNIX版 ..... 86

6.1.1 JobCenter MG/SV ..... 86

### 6.2 Windows版 ..... 87

6.2.1 JobCenter SV ..... 87

6.2.2 CL/Win ..... 88

## 索引 ..... 89

---

---

## 1. JobCenter の動作環境

---

---

JobCenter の動作環境および対応 OS につきましては、リリースメモの「動作環境」をご覧ください。

## 2. インストール

LicenseManager, JobCenter MG/SV および JobCenter CL/Win のインストール方法を説明します。次の手順に従って作業を行ってください。

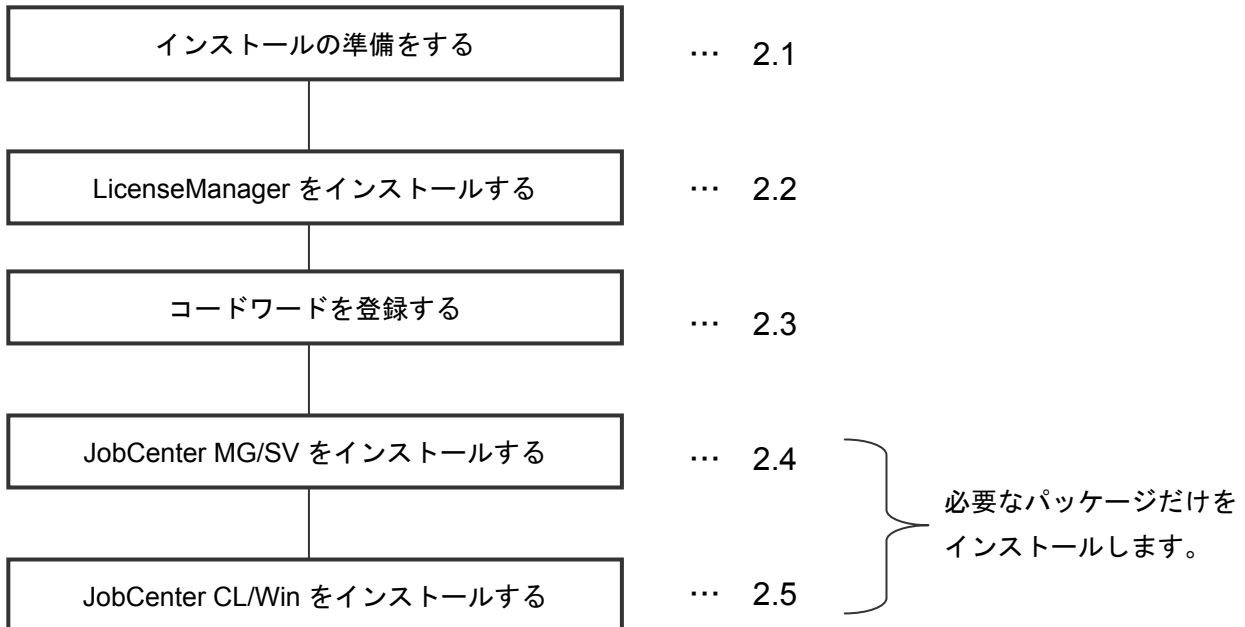


図 2-1 インストールの流れ

- 2.1 インストールの準備をする
- 2.2 LicenseManagerをインストールする
- 2.3 パスワードを登録する
- 2.4 JobCenter MG/SVをインストールする
- 2.5 JobCenter CL/Winをインストールする



---

## 2.1 インストールの準備をする

---

インストールを開始する前に必要な設定を行います。

- 2.1.1 注意事項の事前確認
- 2.1.2 ネットワークを設定する
- 2.1.3 マシンIDを割り当てる

---

### 2.1.1 注意事項の事前確認

---

- UNIX の場合の注意事項

JobCenter の NQS 設定でグループに対するキューアクセス制限等を設定する場合は、クラスタサイトを構成する全てのノードで、グループ名と gid も統一する必要があります。

- Windows の場合の注意事項

ドメイン環境で、JobCenter 管理者をローカルユーザにした場合は JobCenter で利用できるユーザはローカルユーザのみとなります。JobCenter 管理者をドメインユーザとした場合はローカルユーザ・ドメインユーザともに利用できます。

クラスタサイトを構成する全てのノードで、同じユーザを JobCenter 管理者としてセットアップする必要があります。本ガイド「2.4.5 Windows版」の「一般的な注意事項」に記載の通り、当該ノードにおいてローカル管理者権限が必要となります。

クラスタサイトとローカルサイトを同時に動作させる場合、ローカルサイトの JobCenter 管理者がクラスタサイトの JobCenter 管理者となりますので、事前に十分検討のうえ、インストールしてください。

ドメイン環境の場合、クラスタサイトを構成するノードの組み合わせに制限があります。PDC とメンバサーバ、BDC とメンバサーバの組み合わせはできません。

ドメイン環境で JobCenter を利用する場合は DNS が必要となります。

インストールするマシンが参加するネットワークがスパニングツリーで運用されている場合、NIC のリンクアップのタイミングが遅くなるため、マシン起動時に JobCenter がライセンスされている IP アドレスを確認できず、自動サービス起動に失敗する場合があります。その場合「JobCenter 環境構築ガイド 5.4 JobCenter の起動時ライセンスチェックについて」に従い、起動時のリトライ設定を行う必要があります。

JobCenter の使用するディレクトリがウィルススキャンのオンアクセススキャンの対象になっている場合、ジョブの実行が正常に行えない場合があります。そのため、JobCenter の使用するディレクトリ(インストールディレクトリと<Documents and Settings>ディレクトリ<sup>※1</sup>)をオンアクセススキャンの対象外にして下さい。

- 注 1. <Documents and Settings>ディレクトリ全体ではなく、JobCenter で利用するユーザの Documents and Settings¥<USER>¥NTUSER.DAT Documents and Settings¥<USER>¥ntuser.dat.LOG をオンアクセススキンの対象外と設定範囲を絞ることも可能です。

JobCenter をインストール／運用するためには、Server サービスが起動している必要があります。[スタート] - [ファイル名を指定して実行] を選択し、[services.msc] を実行します。[サービス] ダイアログが表示されますので、Server サービスの状態が「開始」、スタートアップの種類が「自動」であることを確認してください。(デフォルトでは「開始、自動」の設定になっています。)

JobCenter をインストール／運用するためには、JobCenter が使用するネットワークのプロパティで「Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有」のチェックが ON になっている必要があります。(デフォルトでは ON の設定になっています。)

- クラスタ環境の場合の注意事項

JobCenter をクラスタ環境にインストールする場合は、クラスタサイトを構成する全てのノードで、ユーザ名と uid を統一する必要があります。uid の変更方法はマニュアル「JobCenter 環境構築ガイド」をご覧ください。

- UNICODE 環境の場合の注意事項

JobCenter を UNICODE 環境でセットアップする場合は、以下の点に注意してください。

- 入力/出力に使用できる文字コードについて

ジョブネットワーク名、部品名、コメント、単位ジョブスクリプトなどの入力値

→ JIS90 互換の範囲でのみ入力可能

単位ジョブの標準出力、標準エラー出力

→ JIS2004 で規定される全ての文字が出力可能(CL/Win で表示可能)



**JIS2004 で拡張された文字を表示するには、それらを表示可能なフォントパッケージが OS にインストールされている必要があります。**

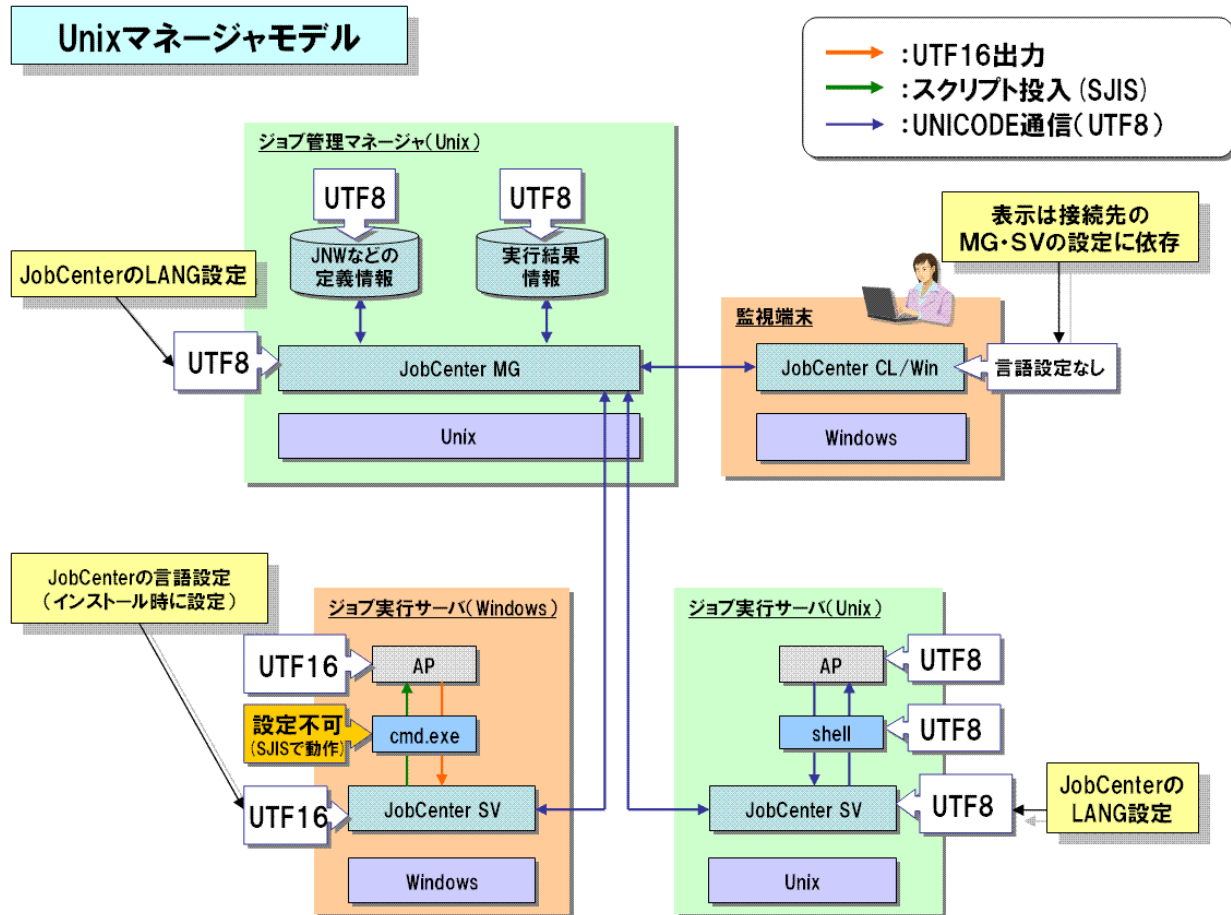


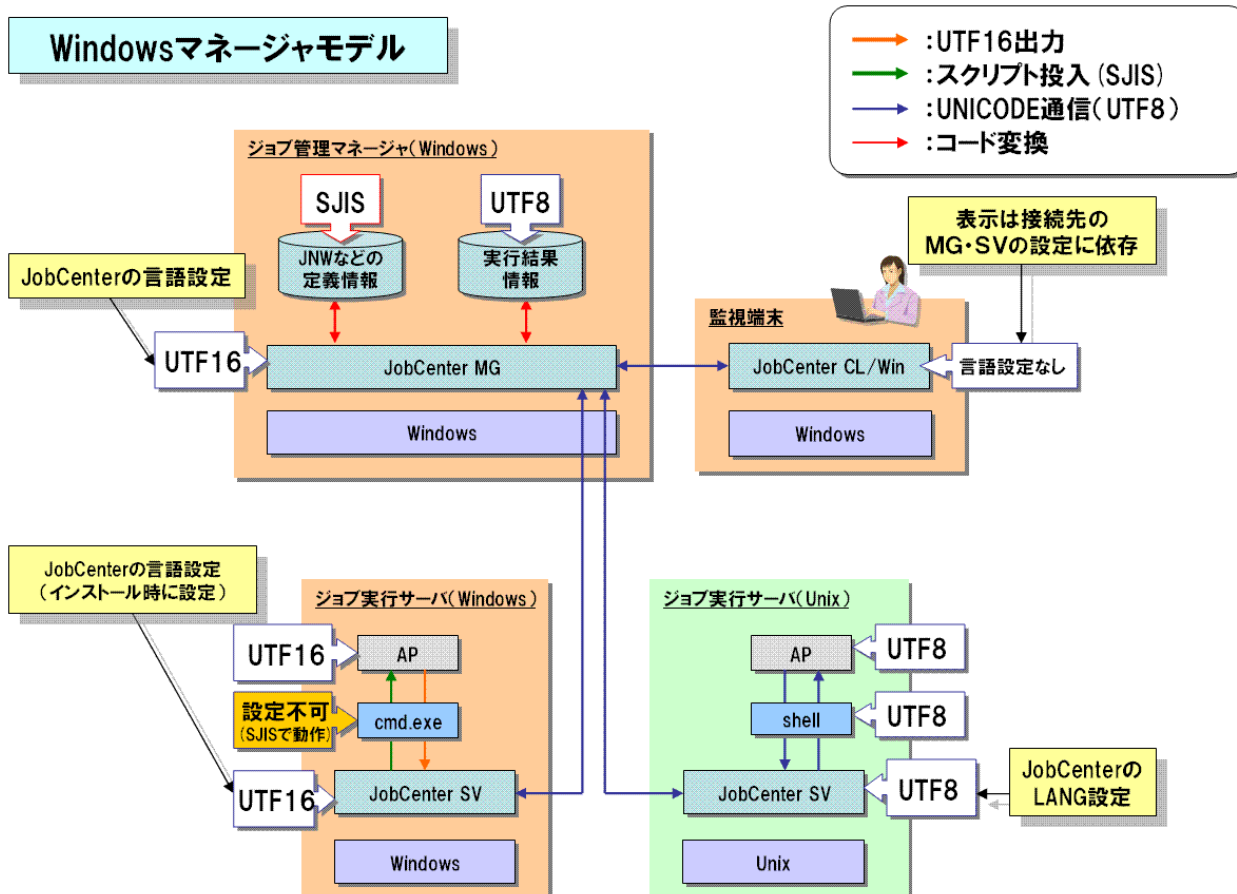
**SAP ERP Option 機能および BI Option 機能を利用する場合は、UNICODE 環境は利用できません。**

- Unix 版と Windows 版の差分について

Unix 版 JobCenter では、ジョブの実行時に LANG が UTF-8 として実行され、ジョブの出力結果も UTF-8 として処理され保存されます。それに対し Windows 版 JobCenter では、コマンド実行シェル(cmd.exe)が SJIS のスクリプトのみの動作となるため、各種ファイルは SJIS で定義されます。ただし、ジョブの実行は UTF-16 として行われ(これは内部的にはコマンドプロンプト上で、/U オプションを使用したのと同じ動作です)、出力結果は UTF16 で出力となりますが、JobCenter がデータとして保存する場合にはこれを UTF-8 に変換して格納します。

以下に Unix 版 JobCenter をマネージャとして構成した場合のモデルと、Windows 版 JobCenter をマネージャとして構成した場合のモデルを例として示します。





■ 接続互換性について

文字コードの差異における下位バージョンとの接続互換性は以下の通りです。

・ MG-SV の接続互換性

		～R12.6.x(MG)		R12.7(MG)～		
		EUC	SJIS	UNICODE	EUC	SJIS
～ R12.6.x(SV)	EUC	○	○	×	○	○
	SJIS	○	○	×	○	○
R12.7(SV) ～	UNICODE	×	×	○	×	×
	EUC	○	○	×	○	○
	SJIS	○	○	×	○	○

・ CL/Win-MG/SV の接続互換性

		～R12.6.x(MG)		R12.7(MG)～		
		EUC	SJIS	UNICODE	EUC	SJIS
CL/Win	～R12.6.x	○	○	×	○	○
	R12.7～	○	○	○	○	○



**UNICODE 環境**を利用する場合、JobCenter を利用する MG,SV 全てを UNICODE 環境で統一する必要があります。従って、異なる文字コードでセットアップされた他のマシンをマネージャフレームのマシン一覧には追加することはできません。(nmapmgr サブコマンドを使うと追加できますが、動作保証しません。)

■ バージョンアップについて

UNIX 版 JobCenter R12.6 以前をインストール済みの環境において、JobCenter R12.7 以降にバージョンアップし、文字コードとして UNICODE を選択した場合、既存のジョブネットワークの定義

データを引き継ぐことができません。既存の定義データを引き継ぎたい場合は、UNICODE 以外を選択してください。

### ■ インポート・エクスポート機能について

エクスポートしたデータを、文字コードが異なる環境にはインポートできません。したがって、JobCenter R12.6 以前の環境でエクスポートしたデータを、JobCenter R12.7 以降の UNICODE 環境にインポートすることはできません。

### ■ イベント連携について

イベント連携の設定において EVENTIF が SS(デフォルト)の場合、UNICODE 環境では利用できません。



**SystemManager の場合、プラットフォームによっては UTF-8 のテキストログ監視機能がサポートされているものもあり、連携可能な場合もあります。詳しくは SystemManager のマニュアルをご確認ください。**

### ■ ログについて

前述のイベントのテキストログ出力や操作・実行ログ、エラーログは、Unix 版と Windows 版では出力される文字コードが異なりますのでご注意ください。

Unix 版：セットアップ時の文字コードに依存

Windows 版：常に SJIS

## 2.1.2 ネットワークを設定する

JobCenter は、TCP/IP ネットワークの設定が正しく行われていることを前提として動作します。マシンの正式ホスト名から IP アドレスを求め、その IP アドレスから得られたホスト名が正式ホスト名に一致していない場合、JobCenter は動作できません。このチェックはドメインの有無まで行いますので、正確に一致するように設定してください。

複数のマシンで JobCenter を運用する場合、すべてのマシンでホスト名や IP アドレスのデータが一致している必要があります。DNS や hosts ファイルの更新漏れなどがないように十分に注意してください。

また、CJC オプションを使用しないで複数のネットワークカードが実装されている場合、最も優先されるネットワークカード上で動作します。たとえば、UNIX 環境の場合、hostname コマンドで返却されるホスト名を使って JobCenter は動作します。

ネットワークの設定の詳細については、「JobCenter 環境構築ガイド 2. ネットワーク環境構築」を参照してください。



**UNIX 環境で複数のネットワークカードに対して、同じホスト名や IP アドレスを割り当てられている場合、インストールや初期設定が行えることがありますが、誤動作の原因になりますので、インストールや初期設定は行わないでください。**

また、Windows 環境の場合は resolv. def ファイルによる名前解決指定が必要になる場合があります。「JobCenter 環境構築ガイド 2.3 Windows でネットワーク環境を構築する場合」も参照して下さい。

ネットワークを設定する際には、次の事項に注意してください。

- ◆ ホスト名の名前解決において、正引／逆引が行えること。
- ◆ 正引／逆引で、エイリアスではなくホストの正式名が一致すること。
- ◆ 複数のネットワークカードを実装している場合、個々のネットワークカードに一意のホスト名／IP アドレスが割り当てられていること。
- ◆ JobCenter の連携を行うホスト間で、ホスト名／IP アドレスのデータが一致していること。
- ◆ JobCenter がセットアップされるホスト間にファイアウォールが存在する場合、ファイアウォールに対して JobCenter が使用するネットワークポートの穴あけ作業をすること。
- ◆ Windows XP Professional(SP2 以上)、Windows Server 2003(SP1 以上)、Windows Server 2008 に JobCenter MG/SV をセットアップした場合、Windows ファイアウォールの例外設定を行うこと。特に Windows Server 2008 環境では、デフォルトでファイアウォールの設定が ON になっていますので注意してください。

ファイアウォールの例外設定を行う際のポート番号については、「JobCenter 環境構築ガイド 2.1 JobCenter で使用する TCP ポート」を参照してください。

### 2.1.3 マシン ID を割り当てる

---

JobCenter では、インストール時にそのシステム内で一意となるマシン ID を割り当てる必要があります。マシン ID の範囲は 1~2147483647 です。マシン ID を割り当てる際には、次の事項に注意してください。

- ◆ 複数のマシンで JobCenter を使う場合には、マシン ID が重複しないこと。  
たとえば、UNIX のマネージャマシンから複数の Windows のサーバマシンへ単位ジョブの転送を行う場合などで、マシン ID が重複していると正常に動作できません。ローカルサイトとクラスタサイト間でも重複することはできません。
- ◆ 設定後にマシン ID を変更しないように最初に運用ルールを決めておくこと。  
各マシンは別マシンのマシン ID も保持しています。この各マシンの持つマシン ID の情報が一致していないと予期せぬ動作になる場合があります。設定後にマシン ID を変更した場合、一部のマシンに更新漏れなどがあると誤動作の原因になります。

## 2.2 LicenseManager をインストールする

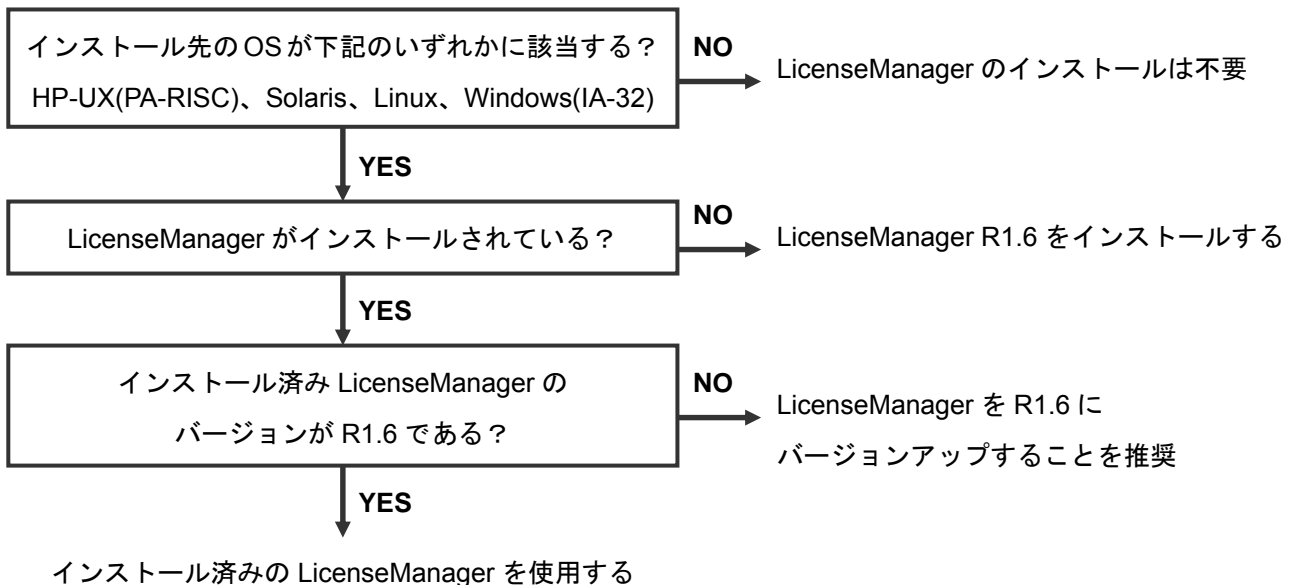
LicenseManager はライセンス管理用製品です。

JobCenter は、LicenseManager を使用してライセンスチェックを行います。

JobCenter 製品をインストールする前に、LicenseManager をインストールしてください。LicenseManager のインストールの要/不要は、下図を参照して判定してください。LicenseManager がインストール済みかどうか、およびバージョンを確認する具体的な方法は、次節以降の OS ごとの説明を参照してください。

LicenseManager R1.6 では、下記の点が改善されていますので、R1.6 より前のバージョンの LicenseManager がインストールされている場合は、R1.6 へバージョンアップすることを推奨します。

- コードワード登録後の JobCenter 起動時のライセンスチェックにおいて、コードワードを登録していない型番についての警告メッセージをイベントログ(Windows)および syslog(Linux/UNIX)へ出力しないように改善
- 型番を指定してお試し期間の残日数を確認できるコマンドを追加



2.2.1 HP-UX版

2.2.2 Solaris版

2.2.3 Linux版

2.2.4 AIX版

2.2.5 Windows版



## 2.2.1 HP-UX 版

### (1) 必要メモリ容量

LicenseManager をインストールして動作させるには、次の固定ディスク容量および使用メモリ容量が必要です。

表 2-1 LicenseManager のインストールに必要な固定ディスクとメモリの容量(HP-UX 版)

固定ディスク容量	メモリ容量
/opt : 1 MB	3 MB
/etc : 1 MB	
/usr : 1 MB	

### (2) LicenseManager のインストール

LicenseManager をインストールするには、次に示す手順で行います。

- <1> LicenseManager の確認
- <2> LicenseManager のインストール

インストール作業の具体的な手順は次の通りです。

## &lt;1&gt; LicenseManager の確認

- ① マシンを立ち上げ、ログイン名「root」でログインします。

```
login:root ↵
```

- ② LicenseManager のインストールを行う前に、LicenseManager がすでにインストールされていないかどうかを確認します。

```
root> /usr/sbin/swlist NECWSLM ↵
```

- 次のように表示された場合、LicenseManager をインストールする必要はありません。  
< LicenseManager R1.6 がすでにインストールされている場合 >

```
# NECWSLM 1.6 WebSAM LicenseManager  
NECWSLM.NECWSNLESD 1.6 WebSAM LicenseManager
```

- 次のように表示された場合、LicenseManager をバージョンアップすることを推奨します。バージョンアップは、古いバージョンをアンインストールした後に新しいバージョンをインストールすることで行います。アンインストールの方法は、「4.1 LicenseManager をアンインストールする」を参照してください。  
< R1.6 より古い LicenseManager がインストールされている場合 >

```
# NECWSLM 1.3.00 WebSAM LicenseManager  
NECWSLM.NECWSNLESD 1.3.00 WebSAM LicenseManager
```

※上記の例では 1.3.00 ですが、この部分が 1.6 でない場合は古いバージョンです。

- 次のように表示された場合は、引き続き LicenseManager のインストールを行います。  
< LicenseManager パッケージがインストールされていない場合 >

```
Software "NECWSLM" was not found on host "hostname:/".
```

## <2> LicenseManager のインストール

LicenseManager は JobCenter のメディアに同梱されています。次の手順に従ってインストールしてください。

- ① JobCenter メディア(CD-ROM)をセットします。

JobCenter メディアは RockRidge 形式で作成されていますので、HP-UX で CD-ROM をマウントする際は、次のように mount コマンドでマウントします。

- root ユーザでログインし、ioscan コマンドでデバイス名の確認を行ってください。

```
root> /usr/sbin/ioscan -fnu -Cdisk
```

- JobCenter メディア(CD-ROM)をセットし、次のコマンドを実行します。

```
root> /usr/sbin/mount -F cdfs -o rr <device-name> <mount-point>
```

マウントポイント(<mount-point>)およびデバイス名(<device-name>)はシステムにあわせて適切に指定してください。

- ② 次のコマンドを実行してインストールします。

```
root> /usr/sbin/swinstall -s <WSLM_PRODUCT_PATH> NECWSLM ↵
```

**備考** <WSLM\_PRODUCT\_PATH>はプロダクトのファイルパスです。実際の入力値は、JobCenter メディアのリリースメモ(RELMEMO)を参照してください。

インストール実行中にメッセージが表示されますが、エラー表示がなければインストールは正常に終了します。

エラーなどによりインストールが失敗した場合には、インストーラのログファイルを参照して対処を行ってください。インストーラのエラーに関しては HP-UX の製品マニュアル等をご覧ください。

- ③ 次のコマンドによりインストール結果を確認します。

```
root> /usr/sbin/swlist NECWSLM ↵
```

- 次のように表示されればインストールは正常に終了しています。

```
# NECWSLM 1.6 WebSAM LicenseManager
NECWSLM.NECWSNLESD 1.6 WebSAM LicenseManager
```

## 2.2.2 Solaris 版

### (1) 必要メモリ容量

LicenseManager をインストールして動作させるには、次の固定ディスク容量および使用メモリ容量が必要です。

表 2-2 LicenseManager のインストールに必要な固定ディスクとメモリの容量(Solaris 版)

固定ディスク容量	メモリ容量
/opt : 1 MB	3 MB
/etc : 1 MB	
/usr : 1 MB	

### (2) LicenseManager のインストール

LicenseManager をインストールするには、次に示す手順で行います。

- <1> LicenseManager の確認
- <2> LicenseManager のインストール

インストール作業の具体的な手順は次の通りです。

#### <1> LicenseManager の確認

- ① マシンを立ち上げ、ログイン名「root」でログインします。

```
login:root ↵
```

- ② LicenseManager のインストールを行う前に、LicenseManager がすでにインストールされていないかどうかを確認します。

```
root> /bin/pkginfo -l NECWSLM ↵
```

- 次のように表示された場合、LicenseManager をインストールする必要はありません。  
<LicenseManager R1.6 がすでにインストールされている場合>

```
PKGINST: NECWSLM
NAME: WebSAM License Manager
CATEGORY: application
ARCH: Solaris
VERSION: 1.6
--(以下、省略)--
```

- 次のように表示された場合、LicenseManagerをバージョンアップすることを推奨します。バージョンアップは、古いバージョンをアンインストールした後に新しいバージョンをインストールすることで行います。アンインストールの方法は、「4.1 LicenseManagerをアンインストールする」を参照してください。

< R1.6 より古いLicenseManagerがインストールされている場合 >

```
PKGINST:  NECWSLM
          NAME:  WebSAM License Manager
CATEGORY:  application
          ARCH:  Solaris
          VERSION:  Release1.3 Rev00
          --(以下、省略)--
```

※上記の例では 1.3 ですが、この部分が 1.6 でない場合は古いバージョンです。

- 次のように表示された場合は、引き続き LicenseManager のインストールを行います。

<LicenseManager がインストールされていない場合 >

```
ERROR: information for "NECWSLM" was not found
```

## <2> LicenseManager のインストール

LicenseManager は JobCenter のメディアに同梱されています。次の手順に従ってインストールしてください。

- ① JobCenter メディア(CD-ROM)をセットしてマウントします。マウント方法は Solaris の製品マニュアル等を参照してください。
- ② 次のコマンドを実行してインストールを行います。

```
root> /bin/pkgadd -d <WSLM_PRODUCT_PATH> ↵
```

**備考** <WSLM\_PRODUCT\_PATH>は、プロダクトのファイルパスです。実際の入力値は JobCenter メディアのリリースメモ(RELMEMO)を参照してください。

インストール実行中にメッセージが表示されますが、エラー表示がなければインストールは正常に終了しています。

エラーなどによりインストールが失敗した場合には、インストーラのログファイルを参照し、対処を行ってください。インストーラのエラーに関しては、Solaris の製品マニュアル等をご覧ください。

- ③ 次のコマンドによりインストール結果を確認します。

```
root> /bin/pkginfo -l NECWSLM ↵
```

- STATUS: の項が次の表示になっていればインストールは正常に終了しています。

```
completely installed
```

## 2.2.3 Linux 版

### (1) 必要メモリ容量

LicenseManager をインストールして動作させるには、次の固定ディスク容量および使用メモリ容量が必要です。

表 2-3 LicenseManager のインストールに必要な固定ディスクとメモリの容量(Linux 版)

固定ディスク容量	メモリ容量
/opt : 1 MB	1 MB
/etc : 1 MB	
/usr : 1 MB	

### (2) LicenseManager のインストール

LicenseManager をインストールするには、次に示す手順で行います。

- <1> LicenseManager の確認
- <2> LicenseManager のインストール

インストール作業の具体的な手順は次の通りです。

#### <1> LicenseManager の確認

- ① マシンを立ち上げ、ログイン名「root」でログインします。

```
login:root ↵
```

- ② LicenseManager のインストールを行う前に、LicenseManager がすでにインストールされていないかどうかを確認します。

```
> /bin/rpm -qa NECWSLM ↵
```

- 次のように表示された場合、LicenseManager をインストールする必要はありません。  
<LicenseManager R1.6 がすでにインストールされている場合>

```
NECWSLM-1.6-1
```

- 次のように表示された場合、LicenseManager をバージョンアップすることを推奨します。バージョンアップは、古いバージョンをアンインストールした後に新しいバージョンをインストールすることで行います。アンインストールの方法は、「4.1 LicenseManager をアンインストールする」を参照してください。

< R1.6 より古い LicenseManager がインストールされている場合 >

```
NECWSLM-1.3.00-1
```

※上記の例では 1.3.00 ですが、この部分が 1.6 でない場合は古いバージョンです。

- 何も表示されなかった場合、LicenseManager はインストールされていません。引き続き LicenseManager のインストールを行います。

**<2> LicenseManager のインストール**

LicenseManagerはJobCenterのメディアに同梱されています。次の手順に従って、インストールしてください。

- ① JobCenter メディア (CD-ROM) をセットしてマウントします。マウント方法は Linux の製品マニュアル等を参照してください。
- ② 次のコマンドによりインストールを実行します。

- ◆ IA32 および EM64T/AMD64 の場合

```
root> /bin/rpm -i <WSLM_PRODUCT_PATH> ↵
```

- ◆ IA64(IPF)の場合

```
root> /bin/rpm -i --define "_autorelocate_path %{nil}" <WSLM_PRODUCT_PATH> ↵
```

**備考** <WSLM\_PRODUCT\_PATH>は、プロダクトのファイルパスです。実際の入力値は JobCenter メディアのリリースメモ(RELMEMO)を参照してください。

- 次のメッセージが表示されれば、インストールは正常に終了しています。

```
***** now installing *****
Installation was successful.
```

エラーなどによりインストールが失敗した場合には、インストーラのログファイルを参照し、対処を行ってください。

インストーラのエラーに関しては Linux の製品マニュアル等をご覧ください。

- ③ 次のコマンドによりインストール結果を確認します。

```
root > /bin/rpm -qa NECWSLM ↵
```

- 次のように表示されればインストールは正常に終了しています。

```
NECWSLM-1.6-1
```

**2.2.4 AIX 版**

LicenseManager のインストールは必要ありません。

「2.3 コードワードを登録する」の.lockinfoファイルへのコードワード登録のみ行って下さい。



## 2.2.5 Windows 版

32bit 版 Windows について、LicenseManager をインストールします。

64bit版Windows(IPF,x64)の場合はLicenseManagerのインストールは不要です。「2.3 コードワードを登録する」のlockinfoファイルへのコードワード登録のみ行って下さい。

### (1) 必要メモリ容量

LicenseManager をインストールし、動作させるには次の固定ディスク容量および使用メモリ容量が必要です。

表 2-4 LicenseManager のインストールに必要な固定ディスクとメモリの容量(Windows 版)

固定ディスク容量	メモリ容量
2 MB	2 MB

### (2) LicenseManager のインストール

LicenseManager をインストールするには、次に示す手順で行います。

- <1> LicenseManager の確認
- <2> LicenseManager のインストール

次に、LicenseManager のインストール作業の具体的な手順を説明します。

#### <1> LicenseManager の確認

- ① マシンを立ち上げ、Administrator 権限のあるユーザでログインします。
- ② LicenseManager のインストールを行う前に、LicenseManager がすでにインストールされていないかどうかを確認します。
- ③ 【Windows XP, Server 2003】
 

[スタート] - [設定] - [コントロールパネル] でコントロールパネルを表示させます。[プログラムの追加と削除] 画面で [WebSAM LicenseManager(MainPart)] のエントリがないことを確認します。

【Windows Vista, Server 2008】

[スタート] - [設定] - [コントロールパネル] でコントロールパネルを表示させます。[プログラムと機能] 画面で [WebSAM LicenseManager(MainPart)] のエントリがないことを確認します。
- ④ LicenseManagerがすでに存在していた場合は、バージョンを確認します。確認方法は、下記のとおりです。バージョンが 1.6 でない場合、LicenseManagerをバージョンアップすることを推奨します。バージョンアップは、古いバージョンをアンインストールした後に新しいバージョンをインストールすることで行います。アンインストールの方法は、「4.1 LicenseManagerをアンインストールする」を参照してください。

### 【Windows XP, Server 2003】

[プログラムの追加と削除] 画面で [WebSAM LicenseManager(MainPart)] のエントリーの

サポート情報を参照するには、ここをクリックしてください。

をクリックし、サポート情報ダイアログを表示させます。

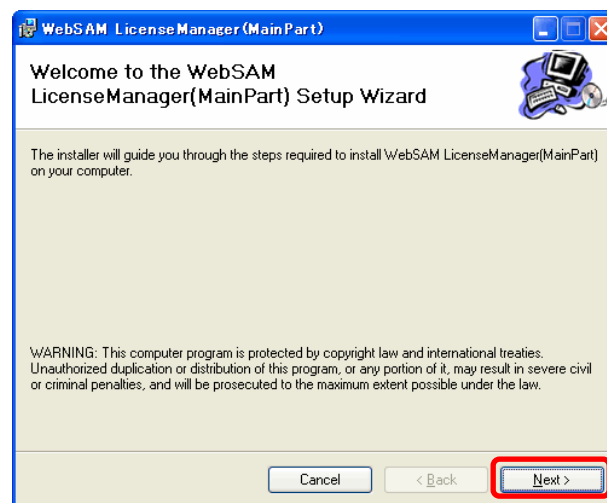
### 【Windows Vista, Server 2008】

[プログラムと機能] 画面の [表示(V)] メニューから [詳細表示の設定] を選択し、[バージョン] にチェックを入れることで、バージョン情報が表示されます。

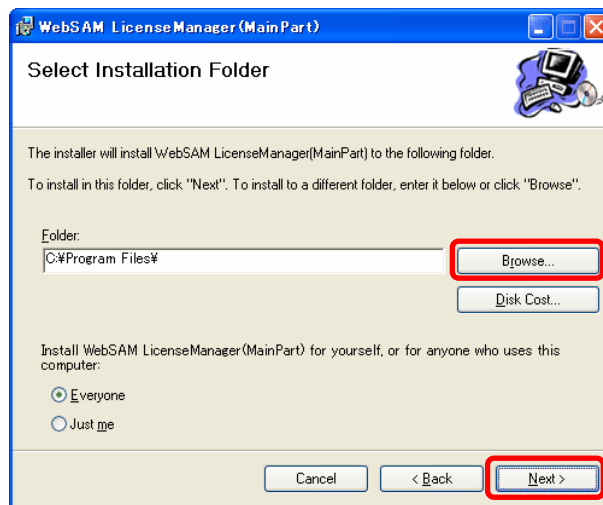
## <2> LicenseManager(MainPart)のインストール

LicenseManager は JobCenter のメディアに同梱されています。次の手順に従ってインストールしてください。

- ① JobCenter のメディアから、パッケージファイル (setup.exe および lmsetup.msi) をローカルディスク上の任意の同一フォルダ内にコピーします。ここでは、C:¥setup.exe および C:¥lmsetup.msi にコピーします。
- ② コピーした setup.exe ファイルを実行し、LicenseManager のインストーラを起動します。
- ③ 次のような画面が表示されますので、[Next>] ボタンをクリックします。

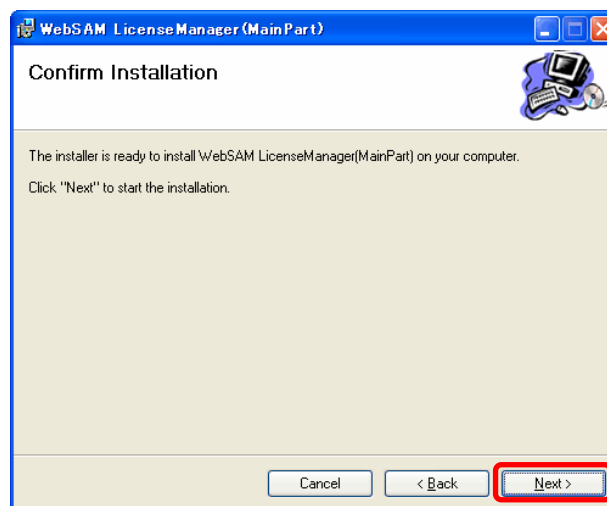


- ④ 「Select Installation Folder」画面が表示されます。  
インストール先のフォルダを決定後、[Next>] ボタンをクリックします。

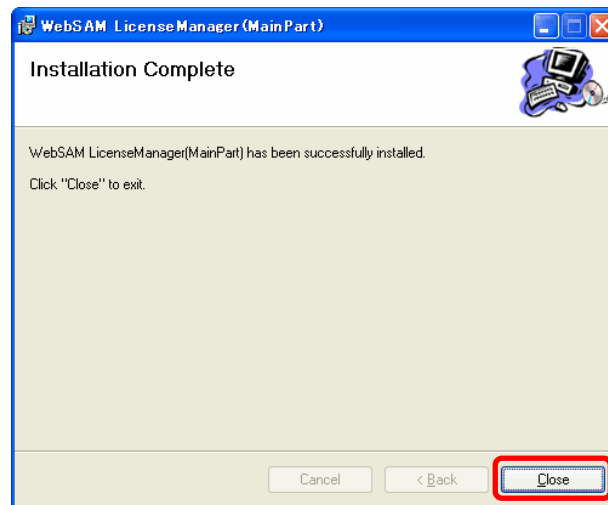


**注** 既定のインストール先フォルダを変更する場合には、[Browse...] ボタンをクリックして、表示された画面の指示に従ってインストール先のフォルダを選択し、[OK] ボタンをクリックします。

- ⑤ 確認画面が表示されます。  
設定が完了したら [Next>] ボタンをクリックします。設定内容を変更する場合は、[< Back] ボタンをクリックし各項目の画面まで戻って設定をやり直します。



- ⑥ すべてのインストールが完了すると次の画面が表示されます。  
[Close] ボタンをクリックしてください。

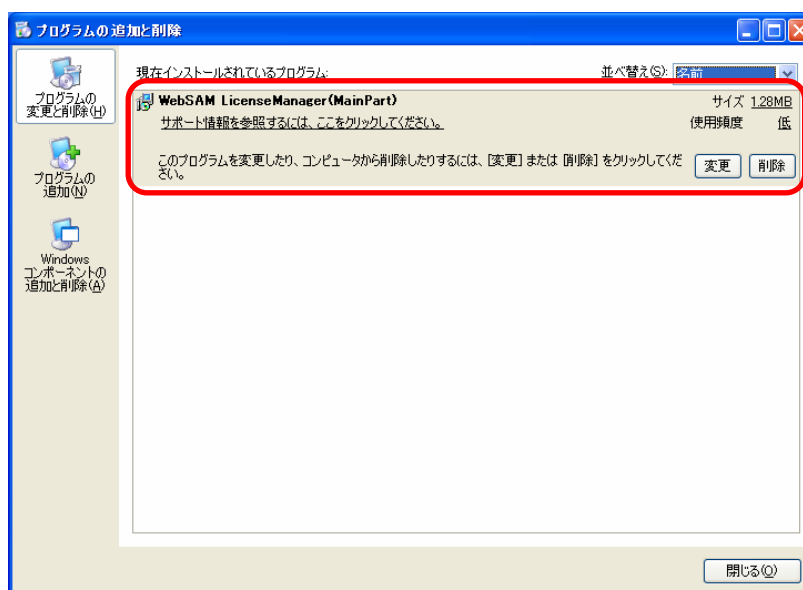


- !** 再起動を促すメッセージが表示された場合は、JobCenter プロダクトをインストールする以前に、必ずシステムを再起動してください。

ここまでで、「LicenseManager(Main Part)」のインストール作業は完了です。

最後に、インストールが正常に終了したかを確認します。

- ⑦ Windows の [スタート] - [設定] - [コントロールパネル] で「プログラムの追加と削除」を実行します。  
次の画面例のように「WebSAM LicenseManager(Main Part)」のエントリが表示されていれば正常に終了しています。



## 2.3 コードワードを登録する

LicenseManager のインストールが終了したあとで、JobCenter をセットアップする前に、ライセンス解除のためのコードワードの登録を行います。

### 2.3.1 コードワードの登録作業

#### 2.3.2 LicenseManagerインストール後に出力されるメッセージ

### 2.3.1 コードワードの登録作業

次のファイルに対して、コードワードの登録を行います。

なお LicenseManager のインストールが不要なプラットフォーム(HP-UX(IPF)、AIX、64bit 版 Windows(IPF,x64))の場合は、次のパスでディレクトリと lockinfo ファイルをテキスト形式で作成してから以下の作業を行ってください。

- UNIX の場合 :            /etc/opt/wsnlesd/.lockinfo
- Windows の場合 :        %InstallDirectory%\wsnlesd\etc\opt\wsnlesd\lockinfo

**備考** %InstallDirectory%は LicenseManager をインストールしたディレクトリを示します。デフォルトは OS をインストールしたドライブの¥Program Files です。

それぞれの.lockinfo(lockinfo)ファイルに「型番 コードワード」の形式で登録します。次の例のように、型番とコードワードの間は 1 個以上のスペースまたはタブで区切ってください。

#### [.lockinfo(lockinfo)ファイルへの登録例]

```
UQ4322-H0C4A1 reYrD4EyhOViab9BCPnw0RzmlG76acjKHRV9Vp%Yyr0l
UQ4370-H0C1B1 u4v%daE6VNGKk2VdrS50yQwuoFQCbb0#lSUVDqv4Pi8z
UQ4343-H0C1A1 Ses3s1VedNUShcoJkYR46MjqHDTKpdj#dQXZEvtMvrxz
... .....
```

**備考** コードワードの登録を行わない場合でも、お試し期間の 60 日間は JobCenter を使用することが可能です。お試し期間を過ぎると、JobCenter の再起動ができなくなるので注意してください。LicenseManager のバージョンが R1.6 以降の場合は、wsnlcheck コマンドを使ってお試し期間の残日数を確認できます。wsnlcheck コマンドの使い方は、次頁を参照してください。

## コードワードの確認作業

ライセンスロックの解除状態は、次のコマンドで確認できます。

**備考** OS が HP-UX(IPF)、AIX、64bit 版 Windows(IPF,x64)の場合は、確認作業は不要です。JobCenter が正常に起動し、動作していれば問題ありません。

【LicenseManager R1.6 以降の場合】

- UNIX の場合 :            /opt/wsnlesd/bin/wsnlcheck 型番
- Windows の場合 :        %InstallDirectory%\wsnlesd\bin\wsncheck 型番

出力結果により、下記の状態であることが分かります (XXXXXX-XXXXXX は型番を表します)。

XXXXXX-XXXXXX "LICENSED"

例 : UQ4321-X0Y1Z2 "LICENSED"

意味 : 正しくライセンス解除できています。

No license of XXXXXX-XXXXXX

例 : No license of UQ4321-X0Y1Z2

意味 : 指定した型番に関するライセンス情報はありません。

コードワードを未登録かつ JobCenter をインストールしていない場合に表示されます。

コードワード登録後に表示された場合は、コードワードが正しく認識されていません。下記の項目を確認してください。

○.lockfile(lockfile)に登録したコードワードに間違いはありませんか？

○.lockfile(lockfile)に登録した型番は、コードワード申請時に指定した型番と一致していますか？

○マシンの IP アドレスは、コードワード申請時に指定した IP アドレスと一致していますか？

XXXXXX-XXXXXX "TRIAL" (until YYYY/MM/DD)

例 : UQ4321-X0Y1Z2 "TRIAL" (until 2009/08/31)

意味 : YYYY/MM/DD まで、お試し期間中です。

コードワード登録後に表示された場合は、コードワードが正しく認識されていません。下記の項目を確認してください。

○.lockfile(lockfile)の作成ディレクトリおよびファイル名に間違いはありませんか？

○.lockfile(lockfile)に登録した型番に間違いはありませんか？

XXXXXX-XXXXXX "NO LICENSE(TRIAL)" (expired YYYY/MM/DD)

例 : UQ4321-X0Y1Z2 "NO LICENSE(TRIAL)" (expired 2009/08/31)

意味 : YYYY/MM/DD で、お試し期間が終了しています。

## 【LicenseManager R1.5 以前の場合】

- UNIX の場合 :            /opt/wsnlesd/bin/wsnlesd -p 型番
- Windows の場合 :        %InstallDirectory%\wsnlesd\bin\wsnlesd -p 型番

※ R1.6 以降にも、このコマンドは含まれますが、より多くの情報が表示される wsnlcheck のご利用を推奨します。

出力結果により、下記の状態であることが分かります（XXXXXX-XXXXXX は型番を表します）。

XXXXXX-XXXXXX    ""

例 : UQ4321-X0Y1Z2    ""

意味 : 正しくライセンス解除できています。

XXXXXX-XXXXXX    "TRIAL"

例 : UQ4321-X0Y1Z2    "TRIAL"

意味 : お試し期間中です。

    コードワード登録後に表示された場合は、コードワードが正しく認識されていません。下記の項目を確認してください。

    ○.lockfile(lockfile)に登録した型番に間違いはありませんか？

Error ErrorMessage<<Main()>>:License\_Check() failed. rc : ?

例 : Error<<Main()>>:License\_Check() failed. rc : 3

意味 : 処理中にエラーが発生しました。コードワードが正しく登録されていません。下記の項目を確認してください。

    Orc : 3 の場合、.lockfile(lockfile)に登録したコードワードに間違いはありませんか？

    Orc : 4 の場合、.lockfile(lockfile)に登録した型番は、コードワード申請時に指定した型番と一致していますか？

    Orc : 5 の場合、マシンの IP アドレスは、コードワード申請時に指定した IP アドレスと一致していますか？

### 2.3.2 LicenseManager インストール後に出力されるメッセージ

LicenseManager インストール後、次のようなメッセージが syslog(Windows の場合はイベントログ)に出力される場合があります。

- UNIX の場合  
日付 時刻 ホスト名 wsnlesd: The license of this 型番-\* is invalidated on YYYY/MM/DD. <sup>※1</sup>
- Windows の場合  
The license of this 型番-\* is invalidated on YYYY/MM/DD.

注1. 「型番-\*」の記述は、例えば「UW0312-H2NA00」といった製品型番の「-」よりも前の記載部分を示しています。メッセージには「UW0312-\*」などと表示されます。

上記メッセージは「型番-\*」の製品がお試し期間に入っていることおよびその有効期限を示すメッセージです。これらは、コードワードが登録されていないJobCenter製品の型番ごとに出力されます。当該型番「型番-\*」のコードワードが正しく登録されていれば出力されません。

ライセンス登録後に上記メッセージが出力される場合、出力されたメッセージの型番部分を確認し、.lockinfo(lockinfo)ファイルに登録したコードワードの型番に該当するかどうかを確認してください。

◆ **登録済みの型番について上記メッセージが出力された場合**

コードワードが正しく設定されていない可能性があります。「2.3.1 コードワードの登録作業」のwsnlesdコマンドによる確認方法を参照して、コードワードの登録状態を再度確認してください。

◆ **出力されたすべてのメッセージの「型番-\*」が、登録したコードワードの型番に該当しない場合**

メッセージは無視してかまいません。登録されたコードワードにより、ライセンスは解除されています。このメッセージは、メッセージ中に明示された有効期限が過ぎると出力されなくなります。

(なお、上記の期限切れ警告メッセージを抑制する方法はありません)

.lockinfo(lockinfo)ファイルに次のコードワードが登録されている場合の例を示します。

(例)

• **登録されている型番**

```
UW0312-H2NA00 reYrD4EyhOViab9BCPnw0RzmlG76acjKHRV9Vp%Yyr0l
```

次のようなメッセージがsyslogに出力されます。

```
Mar 1 15:35:02 shaker wsnlesd: The license of this UQ4321-* is invalidated
on 2005/04/30.
Mar 1 15:35:02 shaker wsnlesd: The license of this UQ4322-* is invalidated
on 2005/04/30.
```

しかし、出力されたメッセージは登録した「UW0312-\*」以外の型番に関するものであるため、このメッセージは無視してかまいません。「UW0312-\*」についてはライセンス解除されているため、JobCenterは問題なく起動します。



## 2.4 JobCenter MG/SV をインストールする

JobCenter MG と SV は共通のパッケージです。以降「JobCenter MG/SV」と表記し、インストール方法を解説します。



一台のマシンで MG と SV の両方の役割を果たす場合でも、インストールは一回だけ行ってください。ただし、コードワードの登録は JobCenter MG と JobCenter SV の 2 つ分必要です。

- 2.4.1 HP-UX版
- 2.4.2 Solaris版
- 2.4.3 Linux版
- 2.4.4 AIX版
- 2.4.5 Windows版

### 2.4.1 HP-UX 版

HP-UX 版の JobCenter MG/SV のインストール手順を示します。

- ① JobCenter メディア(CD-ROM)をセットします。

JobCenter メディアは RockRidge 形式で作成されていますので、HP-UX で CD-ROM をマウントする際は、次のように mount コマンドでマウントします。

- root ユーザでログインし、ioscan コマンドでデバイス名の確認を行ってください。

```
root> /usr/sbin/ioscan -fnu -Cdisk
```

- JobCenter メディア(CD-ROM)をセットし、次のコマンドを実行します。

```
root> /usr/sbin/mount -F cdfs -o rr <device-name> <mount-point>
```

**備考** マウントポイント(<mount-point>)およびデバイス名(<device-name>)はシステムにあわせて変更してください。

- ② 次のコマンドを実行してインストールします。

```
root> /usr/sbin/swinstall -s <HP_PRODUCT_PATH> NECJCpkg
```

**備考** <HP\_PRODUCT\_PATH>はプロダクトのファイルパスです。実際の入力値は JobCenter メディアのリリースメモ(RELMEMO)を参照してください。

- ③ コマンド実行後エラーがなければ、インストーラは次のメッセージを表示します。インストールは正常に終了しています。

```
* Execution succeeded.
```

エラーなどによりインストールが失敗した場合には、インストーラのログファイルを参照してインストールに失敗した理由を取り除いてください。インストーラのエラーについては HP-UX の製品マニュアル等をご覧ください。

- ④ インストール正常終了後、「3. 実行環境のセットアップ(UNIX版)へ進んでください。

## 2.4.2 Solaris 版

Solaris 版の JobCenter MG/SV のインストール手順を示します。

- ① JobCenter メディア(CD-ROM)をセットしてマウントします。マウント方法は Solaris の製品マニュアル等を参照してください。
- ② 次のコマンドを実行してインストールを行います。

```
root> /bin/pkgadd -d <SUN_PRODUCT_PATH>
```

**備考** <SUN\_PRODUCT\_PATH>は、プロダクトのファイルパスです。実際の入力値は、JobCenter メディアのリリースメモ(RELMEMO)を参照してください。

- ③ コマンド実行後、システムは JobCenter がインストール可能であることを次のように表示し、入力待ちの状態となります。

```
The following packages are available:
  1  NECJCpkg      JobCenter MG/SV package for Solaris
                        (Solaris(Sparc)) XXXX

Select package(s) you wish to process (or 'all' to process
all packages). (default: all) [?,??,q]:
```

**備考** XXXX には JobCenter のバージョンが表示されます。

- ④ パッケージのインストールを行う場合には、「1」を選択し、リターンキーを押します。以降はインストーラの指示に従ってインストールを行います。

エラーなどによりインストールが失敗した場合には、インストーラのログファイルを参照し、インストールに失敗した理由を取り除いてください。インストーラのエラーに関しては Solaris の製品マニュアル等をご覧ください。

- ⑤ インストール正常終了後、「3. 実行環境のセットアップ(UNIX版)」へ進んでください。

## 2.4.3 Linux 版

Linux 版の JobCenter MG/SV のインストール手順を示します。JobCenter 12.7 から RedHat 版のパッケージと Miracle 版のパッケージが共通化されました。Miracle Linux の場合は直接<3>の手順に進んでください。

### <1> 32 ビット互換パッケージのインストール(EM64T システムのみ)

JobCenter は 32 ビットアプリケーションであるため、EM64T システム上で JobCenter を動作させる場合は、RedHat OS にあらかじめ「32 ビット互換アーキテクチャのサポート」パッケージを追加インストールしておく必要があります。OS インストール時に「カスタム」を選択して「互換アーキテクチャのサポート」パッケージをインストールしていることを確認して下さい。

### <2> IA-32 Execution Layer と 32-bit Compatibility Layer のインストール(IA-64 システムのみ)

JobCenter は 32 ビットアプリケーションであるため、IA-64 システム(Itanium ベースのシステム)上で JobCenter を動作させる場合は、32 ビットアプリケーションのランタイム環境のセットアップが必要です。

このため、次の手順に従って IA-32 Execution Layer と 32 ビット互換パッケージのインストールを行ってください。

#### • Red Hat での IA-32 Execution Layer のインストール

- ① X 端末で、当該システムに root 権限でログインします。
- ② Red Hat Enterprise Linux Extras の CD-ROM をセットし、mount します。
- ③ CD-ROM 上の autorun を実行します。
- ④ GUI 画面から、「進む」を選択し、「パッケージの追加と削除」画面で「Misc」を選択して、「進む」ボタンをクリックします。これにより、IA-32 Execution Layer(ia32el パッケージと ksh パッケージ)がインストールされます。
- ⑤ umount 後に CD-ROM を取り出します。

#### • Red Hat での 32 ビット互換パッケージのインストール

- ① X 端末で、当該システムに root 権限でログインします。
- ② Red Hat Enterprise Linux 32-bit Compatibility Layer の CD-ROM をセットし、mount します。
- ③ CD-ROM 上の autorun を実行します。
- ④ GUI 画面から、「進む」を選択し、「パッケージの追加と削除」画面で、「互換アーキテクチャのサポート」を選択し(すべてのパッケージをインストールします)、「進む」ボタンをクリックします。これにより互換パッケージがインストールされます。
- ⑤ umount 後に CD-ROM を取り出します。

### <3> JobCenter のインストール

- ① JobCenter メディア(CD-ROM)をセットしてマウントします。マウント方法は Linux の製品マニュアル等を参照してください。
- ② 次のコマンドを実行してインストールを行います。

◆ 32 ビットおよび EM64T の場合

```
> /bin/rpm -i <LINUX_PRODUCT_PATH>
```

◆ IA64 の場合

```
> /bin/rpm -i --define "_autorelocate_path %{nil}" <LINUX_PRODUCT_PATH>
```

**備考** <LINUX\_PRODUCT\_PATH>は、プロダクトのファイルパスです。実際の入力値は、JobCenter メディアのリリースメモ(RELMEMO)を参照してください。

コマンド実行後、エラーメッセージが表示されなければインストールは完了です。エラーなどによりインストールが失敗した場合には、インストーラのログファイルを参照してインストールに失敗した理由を取り除いてください。インストーラのエラーに関しては Linux の製品マニュアル等をご覧ください。

- ③ インストールが正常終了後、「3. 実行環境のセットアップ(UNIX版)」へ進んでください。

## 2.4.4 AIX 版

AIX 版の JobCenter MG/SV のインストール手順を示します。



**AIX 環境では同一製品のインストール済みパッケージの確認が自動では行われなため、上書きインストールされる可能性があります。必ず事前に、他の JobCenter MG/SV がインストールされていないことを確認してください。**

- ① JobCenter メディア(CD-ROM)をセットしてマウントします。マウント方法は AIX の製品マニュアル等を参照してください。
- ② 次のコマンドで、メディア内の AIX 版パッケージを適切なディレクトリに展開します。

```
> cd <パッケージを展開するディレクトリ>  
> /usr/bin/tar xvf <AIX_PRODUCT_PATH>
```

**備考** <AIX\_PRODUCT\_PATH>は、プロダクトのファイルパスです。実際の入力値は、JobCenter メディアのリリースメモ(RELMEMO)を参照してください。

- ③ 2つのファイルが展開されます。

```
.toc  
NECJCpkg.XXXX.bff
```

**備考** 上記の XXXX は JobCenter のバージョン表記に読み替えてください。

- ④ ③で解凍されたディレクトリ上で、次のコマンドを実行してインストールします。

```
> /usr/sbin/installp -a -d. NECJCpkg
```

- ⑤ コマンド実行後エラーがなければ、インストーラは次のようなメッセージを表示します。

```
NECJCpkg.base XXXX USR APPLY SUCCESS
```

エラーなどによりインストールが失敗した場合には、インストーラのログファイルを参照し、インストールに失敗した理由を取り除いてください。インストーラのエラーに関しては AIX の製品マニュアル等をご覧ください。

- ⑥ インストールが正常終了後、「3. 実行環境のセットアップ(UNIX版)」へ進んでください。

## 2.4.5 Windows 版

Windows 版の JobCenter MG のインストール手順を示します。

JobCenter MG と JobCenter SV は同一のパッケージになっています。また、インストール手順も同じですので、JobCenter SV のインストールを行う場合も、JobCenter MG のインストール手順に従ってください。Windows 版の場合はインストールとセットアップは一連の流れで行われます。

インストールを始める前に、次に挙げる注意事項を確認してください。

### ◆ 一般的な注意事項

インストールを円滑に行うためにインストール前に、動作中のすべてのアプリケーションを終了してください。

インストール先のマシンに、ローカルの Administrators グループに所属するユーザでログインしてください。ドメイン環境でセットアップする場合も、ローカルの Administrators グループに所属するユーザでログインしてから作業を行ってください。

**備考** %InstallDirectory%は JobCenter 本体のインストールディレクトリを表します。(既定値は C:¥JobCenter¥SV)

### ◆ 環境変数に関する注意事項

環境変数 NQS\_SITE が設定されていると、正常にセットアップが実行できません。

事前に NQS\_SITE の設定の有無を確認して、設定されていた場合は削除してからインストールしてください。

### ◆ 権限に関する注意事項

JobCenter が正常に動作するためには、JobCenter 管理者ユーザやその他の JobCenter 利用者ユーザに対して必要な権限が与えられている必要があります。これらの権限は通常、[管理ツール]→[ローカルセキュリティポリシー]から設定することができます(ドメイン環境の場合は、ドメインコントローラの[ドメインセキュリティポリシー] および[ドメインコントローラセキュリティポリシー]で設定されます)。

通常は特に問題なく付与されていますが、対象システムのセキュリティポリシーによっては付与されていないこともあります。以下に必要な権限を記載しますので、これらの権限が JobCenter 利用者ユーザに付与されるようにしてください。

JobCenter 管理者ユーザ :

SeAssignPrimaryTokenPrivilege : プロセス レベル トークンの置き換え

SeTcbPrivilege : オペレーティング システムの一部として機能

SeServiceLogonRight : サービスとしてログオン

SeNetworkLogonRight : ネットワーク経由でコンピュータへアクセス

それ以外の JobCenter 利用者ユーザ :

SeInteractiveLogonRight : ローカル ログオン

SeBatchLogonRight : バッチ ジョブとしてログオン (Windows Server 2008 のみ)

#### ◆ Windows XP Professional マシンに JobCenter をインストールする際の注意事項

次の①と②の条件を必ず同時に満たしてください。

- ① Windows XP Professional へのログインユーザが“Administrators”グループに所属していること。
- ② 次の(a)~(c)のどれか 1 つが設定されていること。
  - (a) 対象の Windows XP Professional マシンが「ドメイン環境」である。
  - (b) Windows XP Professional へのログインユーザに次の設定がされている。  
ポリシー「ネットワークアクセス：ローカルアカウントの共有とセキュリティモデル」のセキュリティの設定が「クラシック：ローカルユーザをローカルユーザとして認証する」である。

**備考** [スタート] - [ファイル名を指定して実行] を選択し、[secpol.msc] を実行します。[ローカル セキュリティ設定] ダイアログが表示されますので、右ペインのツリーより、[セキュリティの設定] - [ローカル ポリシー] - [セキュリティ オプション] のツリーアイコンを選択してポリシーを表示します。

- (c) 「guest」アカウントにポリシー「ネットワーク経由でコンピュータへアクセスを拒否する」の権限が付与されていない。

**備考** [スタート] - [ファイル名を指定して実行] を選択し、[secpol.msc] を実行します。[ローカル セキュリティ設定] ダイアログが表示されますので、右ペインのツリーより、[セキュリティの設定] - [ローカル ポリシー] - [ユーザ権利の割り当て] のツリーアイコンを選択してポリシーを表示します。

#### ◆ JobCenter(SV/NT)R4.1 以前のバージョンをインストールしている場合の注意事項

JobCenter(SV/NT)R4.1 以前のバージョンをインストールしている場合は、あらかじめアンインストールする必要があります。

JobCenter(SV/NT)R4.1 以前のバージョンのアンインストールは、インストールしたときの CD-ROM をマシンの CD-ROM 装置にセットし、Windows の [スタート] - [ファイル名を指定して実行] を選択します。次のファイル名を指定して、[OK] ボタンを選択します。

- Q:¥PRODUCT¥WIN¥JB\_SV¥DISK1¥SVUNINST.EXE

**備考** ここでは、CD-ROM ドライブを Q: ドライブとして説明します。CD-ROM ドライブを他のドライブ名に割り当てている場合は、適宜読み替えてください。

#### ◆ MSCS クラスタ環境の場合の注意事項

MSCS クラスタ環境で前のバージョンをアンインストールして新しいバージョンをインストールする際は、特別な手順で行う必要があります。詳細については、マニュアル「クラスタ機能利用の手引き」を参照してください。

JobCenter のインストール方法は、次の 3 通りがあります。

- (1) 通常インストール(JobCenter を新規にインストールする場合)
- (2) サイレントインストール(JobCenter を新規にインストールする場合)
- (3) JobCenter がすでにインストールされている場合

(1)(2)(3)それぞれの場合のインストール手順を示します。

### (1) 通常インストール(JobCenter を新規にインストールする場合)

- ① JobCenter メディア(CD-ROM)をセットし、Windows の [スタート] – [ファイル名を指定して実行] を選択します。次のファイル名を指定して、[OK] ボタンを選択します。

Q:¥PACKAGE¥JB¥WINDOWS¥MGSV¥x86¥jcsetup.exe

または

Q:¥PACKAGE¥JB¥WINDOWS¥MGSV¥x64¥jcsetup.exe <sup>注1</sup>

または

Q:¥PACKAGE¥JB¥WINDOWS¥MGSV¥ipf¥jcsetup.exe <sup>注2</sup>

注 1. EM64T/AMD64 用の 64 ビットネイティブバイナリ

注 2. IA64(IPF)用の 64 ビットネイティブバイナリ

**備考** CD-ROM ドライブを Q: ドライブとして説明します。CD-ROM ドライブを他のドライブ名に割り当てている場合は、適宜読み替えてください。

- ② セットアップ開始画面が表示されますので、[次へ(N)>] ボタンをクリックします。





- ③ 前回のインストール時に設定した内容を保存した設定ファイルの読み込みを行うことができます。設定ファイルを読み込む場合、[作成済みの設定ファイルを読み込む]にチェックを入れた後、[参照]ボタンを押して画面の指示に従って設定ファイルを指定してください。設定ファイルを読み込まない場合は[作成済みの設定ファイルを読み込む]にチェックを入れずに [次へ(N)>] ボタンをクリックします。



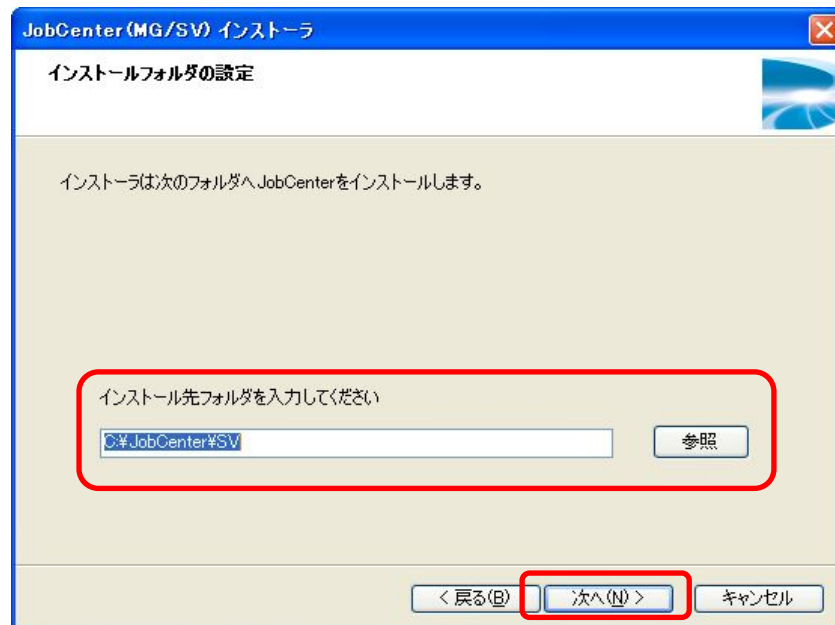
**備考** 設定ファイルは「⑫確認画面」で作成することができます。


- ④ インストールする言語(日本語または英語)を選択し、[次へ(N)>] ボタンをクリックします。



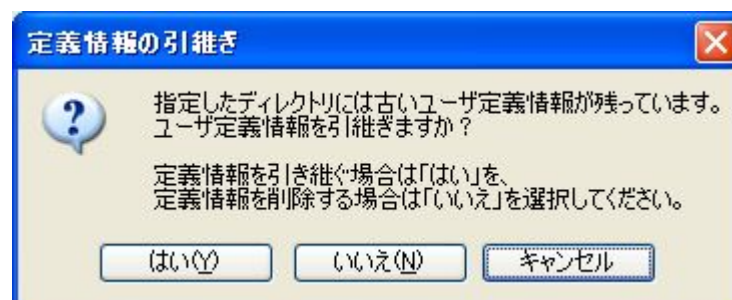
- ⑤ インストール先のフォルダを選択し、[次へ>(N)] ボタンをクリックします。

インストール先のフォルダの初期値は、「C:\%JobCenter%\SV」となっています。  
インストール先のフォルダを変更する場合には、[参照] ボタンをクリックし、画面の指示に従ってインストール先のフォルダを選択し、[OK] ボタンをクリックします。

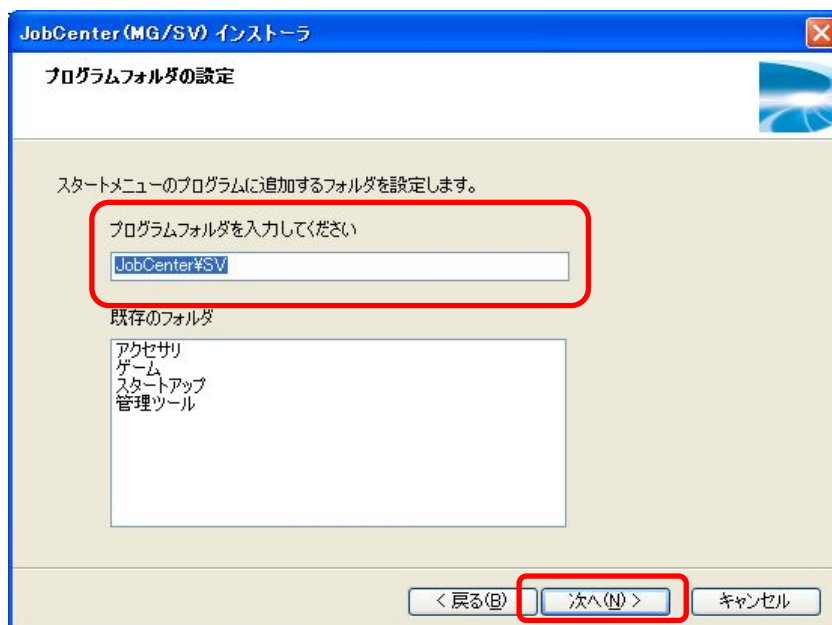


-  インストールフォルダ名にタブおよび「%」、「(」、「)」、「^」、「;」、「&」、「=」、「,」などの特殊文字は使用できません。

[次へ>(N)]ボタンをクリックした時に、古いバージョンのユーザ定義情報を含んでいるディレクトリを指定するか、再インストール時に再インストール前と同じディレクトリを指定した場合に下記の画面が表示されることがあります。定義情報を引き継ぐ場合は[はい]ボタンを押してください。定義情報を削除してインストールを行う場合は[いいえ]ボタンを押してください。別のディレクトリに変更する場合は[キャンセル]ボタンを押して、インストール先を変更してください。




- ⑥ プログラムフォルダを入力し、[次へ>(N)] ボタンをクリックします。  
ショートカット作成先のフォルダの初期値は、「JobCenter¥SV」となっています。



- ⑦ JobCenter で使用する管理者ユーザの登録を行います。

管理者アカウント、管理者パスワード(2 箇所)、利用者グループを入力し、[次へ(N)>] ボタンをクリックします。存在しないアカウントを入力した場合は、新規アカウントが作成されま  
す。また、存在しないグループ名を入力した場合は、新規にグループが作成されます。

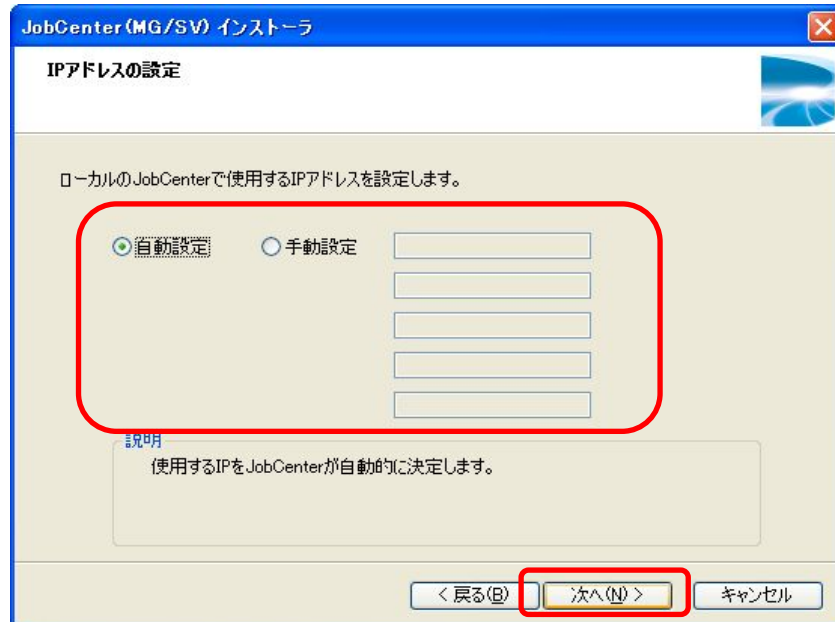
 ユーザ名の最大長は 15 バイトです。

 新規ユーザを JobCenter 管理者にする場合は、インストール実行者に対象のマシン上 (ローカルまたはドメイン) にユーザを追加する権限が必要です。インストール実行者にユーザを追加する権限がない場合、インストール実行中の新規ユーザ追加処理が行えずインストールに失敗します。

**備考** ドメイン環境にインストールする場合は、JobCenter 管理者ユーザをローカルユーザで登録するか、ドメインのユーザで登録するかを選択できます。

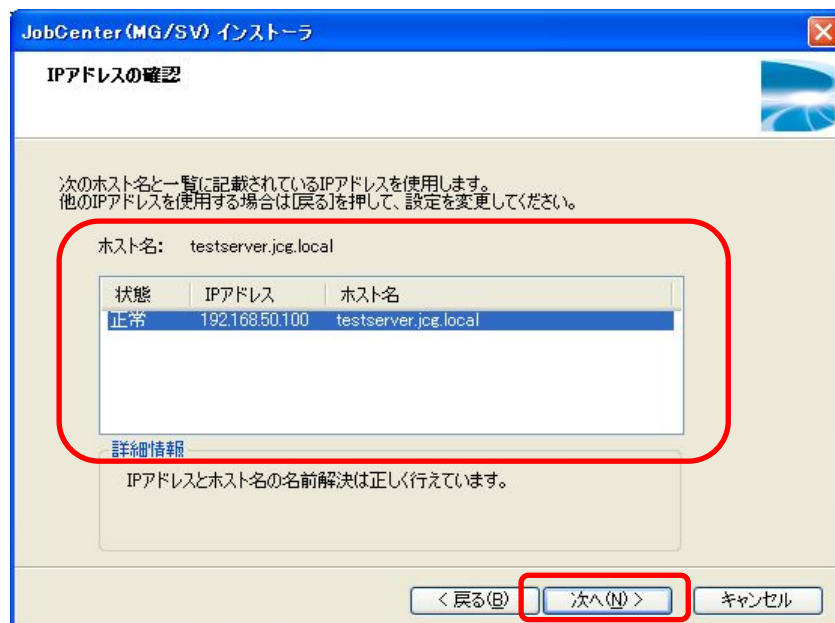
JobCenter 管理者をローカルユーザとした場合、JobCenter で利用できるユーザはローカルユーザのみになります。JobCenter 管理者をドメインユーザとした場合、ローカルユーザ・ドメインユーザともに利用できます。

- ⑧ JobCenter が使用する IP アドレスを指定して、[次へ(N)>] ボタンをクリックします。  
 使用する IP を自動的に決定する場合は[自動設定]を選択してください。  
 マシンが複数の IP アドレスを持っており、特定の IP アドレスで待ち受けを行う場合は[手動設定]を選択し、待ち受ける IP アドレスを入力してください。IP アドレスの指定は5 つまで可能です。



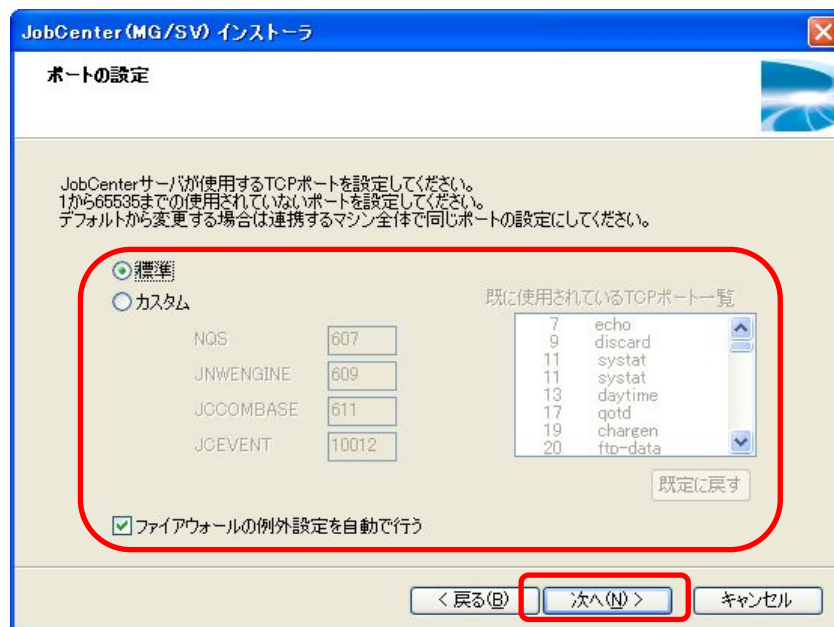
- !** 複数の IP アドレスを持つマシンで、[自動設定]を選択した場合は OS により決定される最も優先度の高い IP アドレスが使用されます。

- ⑨ 「⑧IPアドレスの設定」で設定したIPアドレスの名前解決の結果が表示されます。使用されるIPアドレスとホスト名に問題がなければ、[次へ(N)>] ボタンをクリックします。



- ⑩ JobCenter が使用する TCP ポートと Windows のファイアウォールの例外設定を指定して、  
[次へ(N)>] ボタンをクリックします。

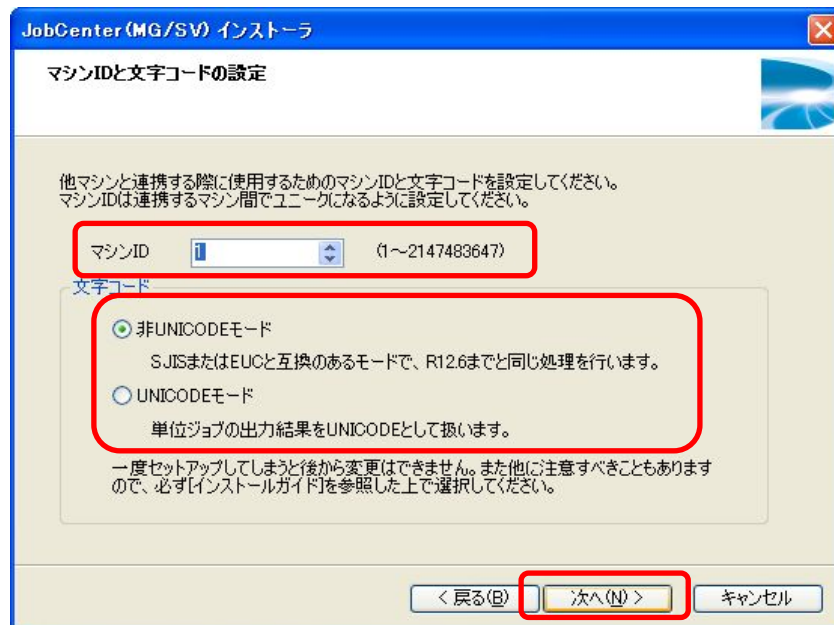
JobCenterMG/SV が使用する TCP/IP のポートをデフォルト値以外の値を使用する場合は[カスタム]にチェックを入れて、各サービスが使用するポート番号を指定してください。TCP/IP のデフォルト値については備考を参照してください。




**備考** TCP ポートのデフォルト値は次のとおりです。設定画面の「既に使用されている TCP ポートの一覧」の欄を参照し、重複していないか確認してください。

NQS : 607  
 JNWENGINE : 609  
 JCCOMBASE : 611  
 JNWEVENT : 10012

- ⑪ NQS のマシン ID(マシン ID)の入力と文字コードの選択をします。マシン ID は、JobCenter が相互にローカルサイト・クラスタサイトをそれぞれ一意に識別するための ID です。文字コードは UNICODE を利用しない場合には非 UNICODE モードを、UNICODE を利用する場合には UNICODE モードを選択します。

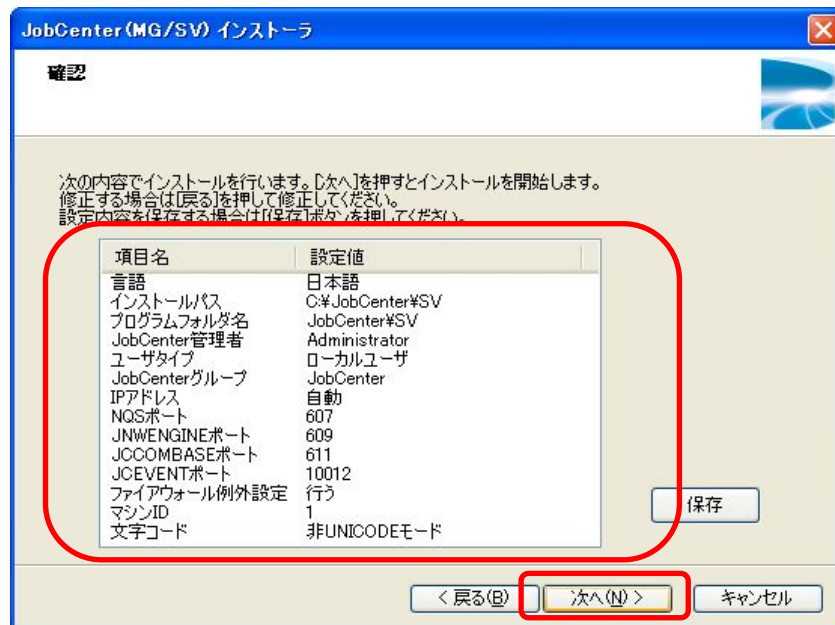


-  JobCenter がインストールされているマシン間で、マシン ID が重複しないようにしてください。デフォルトで「1」が設定されています。

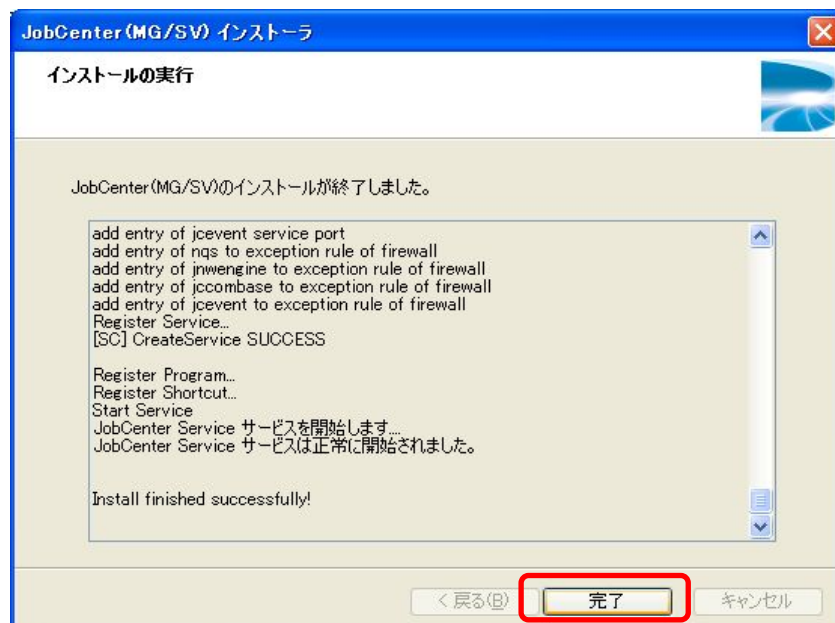
文字コードの設定は一度設定すると後から変更はできません。

UNICODEモード使用時の注意事項については「2.1.1 注意事項の事前確認」を参照してください。

- ⑫ 設定した内容を確認し、問題がなければ[次へ(N)>]ボタンを押すことでインストールが開始されます。
- 設定内容を保存する場合は[保存]ボタンを押すことで設定内容を保存することができます。保存したファイルはサイレントインストールに使用することができます。



- ⑬ JobCenter(MG/SV)のインストールが完了すると[完了]ボタンが押せるようになりますので、[完了] ボタンをクリックし、セットアップを完了します。





**備考** Microsoft **visual C++ 2008 SP1** 再頒布可能パッケージが入っていない場合は自動的にインストールが行われます。この処理に数分かかることがあります。異常ではありません。  
また、ドメイン環境にインストールした場合は、ユーザ追加処理に数分かかることがあります。異常ではありません。



インストール完了時に以下の警告メッセージが表示されることがあります。警告の内容に従って次の事をご確認ください。

- ◆ 「ファイアウォールの例外設定に失敗しました」  
Windowsのファイアウォールが有効になっているか確認してください。ファイアウォールの機能を利用する場合は、ファイアウォールの機能を有効にした後で、JobCenterで使用する(「⑩TCPポートの設定」で設定した)ポート番号の例外登録を行ってください。
- ◆ 「Cluster 用 DLL の配置に失敗しました」  
クラスタソフト MSCS または MSFC 用の JobCenter の DLL の置換に失敗しています。MSCS または MSFC ですでに JobCenter を利用していた場合はマニュアル「クラスタ機能利用の手引き」のバージョンアップ手順をご覧ください。  
MSCS または MSFC を新規に利用する場合は次のファイルを「C:\Windows\cluster」にコピーしてください。MSCS または MSFC を使用しない場合は本設定の必要はありません。  
  - <インストールディレクトリ>\%lib%\JobCenterCluster.dll
  - <インストールディレクトリ>\%lib%\JobCenterClusterEx.dll
- ◆ 「ESMPRO/ServerAgent との連携設定に失敗しました」  
ESMPRO/ServerAgent との連携を行う場合、正しく ServerAgent がインストールされているかを確認してください。正しくインストールされていることを確認後、次のコマンドを実行してください。


```
<インストールディレクトリ>%setup%amitreg add
```


ESMPRO/ServerAgent を利用しない場合は設定の必要はありません。

- ⑭ JobCenter(MG/SV)のインストールが完了後、情報採取コマンド「<インストールディレクトリ>\%bin%\check%jc\_getinfo」を実行して、採取されたデータの内「right.Info」ファイルをテキストエディタで開き、JobCenter 管理者に必要な権限が割り当てられている事([NG]の項目がないこと)を確認してください。[NG]の項目がある場合は、NGになっている権限を JobCenter 管理者に付与してください。これらの権限は通常、[管理ツール]→[ローカルセキュリティポリシー]から設定することができます（ドメイン環境の場合は、ドメインコントローラの[ドメインセキュリティポリシー]および[ドメインコントローラセキュリティポリシー]で設定されます）。

**備考** jc\_getinfo の詳細についてはマニュアル「JobCenter コマンドリファレンス」をご覧ください。

## (2) サイレントインストール(JobCenter を新規にインストールする場合)

 サイレントインストールを行う場合、あらかじめサイレントインストール用の設定ファイルを作成する必要があります。この設定ファイルは「(1)通常インストール ⑫設定内容の確認」で作成することができます。

 Windows Server 2008 環境では、コマンドプロンプトを開く際に右クリックメニューの「管理者として実行」を選択して実行してください。

① JobCenter メディア(CD-ROM)をセットし、コマンドプロンプトを実行します。コマンドプロンプトは Windows の [スタート] - [プログラム] - [アクセサリ] から実行できます。

② 次のコマンドを打ち、カレントディレクトリを変更してください。

## ◆ IA32 環境の場合

```
C:¥> Q:
Q:¥> cd Q:¥PACKAGE¥JB¥WINDOWS¥MGSV¥x86¥script<del>
```

## ◆ EM64T/AMD64 環境の場合

```
C:¥> Q:
Q:¥> cd Q:¥PACKAGE¥JB¥WINDOWS¥MGSV¥x64¥script<del>
```

## ◆ IA64(IPF)環境の場合

```
C:¥> Q:
Q:¥> cd Q:¥PACKAGE¥JB¥WINDOWS¥MGSV¥ipf¥script<del>
```

**備考** CD-ROM ドライブを Q: ドライブとして説明します。CD-ROM ドライブを他のドライブ名に割り当てている場合は、適宜読み替えてください。

③ 次のコマンドを打つことでインストールが開始されます。

```
> install.bat <jcsetup.conf><del>
```

インストールが正しく完了すると「Install finished successfully!」と表示されます。

**備考** <jcsetup.conf>には予め作成済みの設定ファイルのフルパスを入力してください。

④ インストール完了後は「(1)通常インストール ⑭権限の確認」と同様にJobCenter管理者に必要な権限が割り当てられているかを確認し、割り当てられていない場合は割り当ててください。

### (3) JobCenter がすでにインストールされている場合

本アップグレード方法は、旧バージョンがJobCenter(SV)R12.2 以降の場合です。それ以外の場合は、「5.2.1 バージョンアップ」の(1)または(2)を参照してください。

 **本作業(アップグレード)を行う前に必ず次の作業・確認を行ってください。**

- ◆ JobCenter サービスおよびクラスタサイトの停止
- ◆ <JobCenterMG/SV インストールディレクトリ>配下のファイルにアクセスしていないこと
- ◆ JobCenterMG/SV をインストールしたドライブに十分な空き容量(インストール済みのJobCenter MG/SV が使用しているサイズ以上)があること

① JobCenter メディア(CD-ROM)をセットし、Windows の [スタート] - [ファイル名を指定して実行] を選択します。次のファイル名を指定して、[OK] ボタンを選択します。

Q:¥PACKAGE¥JB¥WINDOWS¥MGSV¥x86¥jcsetup.exe

または

Q:¥PACKAGE¥JB¥WINDOWS¥MGSV¥x64¥jcsetup.exe <sup>注1</sup>

または

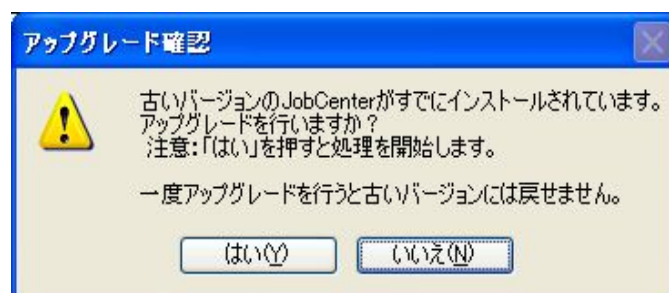
Q:¥PACKAGE¥JB¥WINDOWS¥MGSV¥ipf¥jcsetup.exe <sup>注2</sup>

**注 1.** EM64T/AMD64 用の 64 ビットネイティブバイナリ

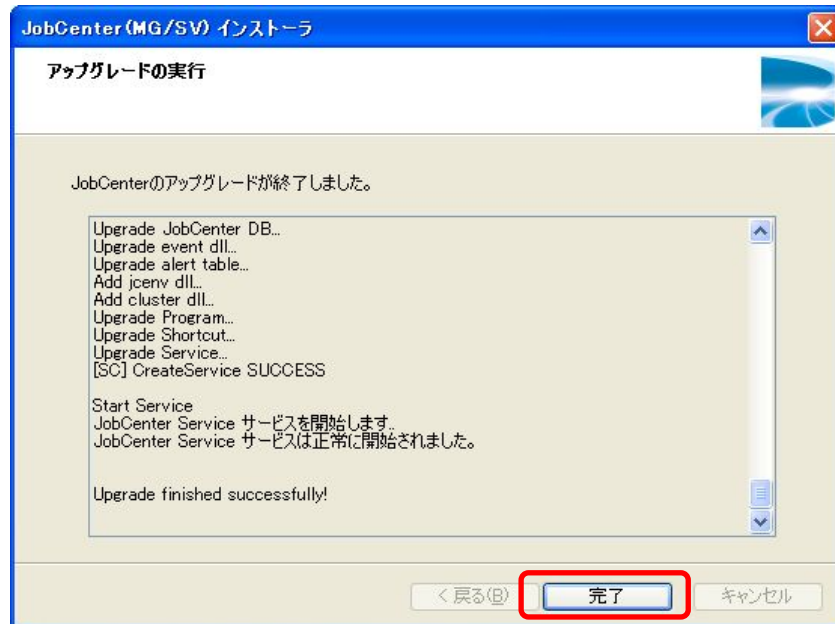
**注 2.** IA64(IPF)用の 64 ビットネイティブバイナリ

**備考** CD-ROM ドライブを Q: ドライブとして説明します。CD-ROM ドライブを他のドライブ名に割り当てている場合は、適宜読み替えてください。

② アップグレード確認で[はい]ボタンを押すと処理を開始します。




- ③ JobCenter(MG/SV)のアップグレードが正常に完了すると[完了]ボタンが押せるようになりますので、[完了] ボタンをクリックし、セットアップを完了します。



また、アップグレードが完了すると、以下のようにアップグレード前のディレクトリのバックアップのパスが表示されます。正常動作することを確認の上、バックアップディレクトリを削除してください。



 インストール完了時に以下の警告メッセージが表示されることがあります。警告の内容に従って次の事をご確認ください。

- ◆ 「Cluster 用 DLL の配置に失敗しました」  
 クラスタソフト MSCS または MSFC 用の JobCenter の DLL の置換に失敗しています。MSCS または MSFC ですでに JobCenter を利用していた場合はマニュアル「クラスタ機能利用の手引き」のバージョンアップ手順をご覧ください。  
 MSCS または MSFC を新規に利用する場合は次のファイルを「C:\%Windows%\cluster」にコピーしてください。MSCS または MSFC を使用しない場合は本設定の必要はありません。

<インストールディレクトリ>%lib%\JobCenterCluster.dll  
 <インストールディレクトリ>%lib%\JobCenterClusterEx.dll

- ◆ 「ESMPRO/ServerAgent との連携設定に失敗しました」  
ESMPRO/ServerAgent との連携を行う場合、正しく ServerAgent がインストールされているかを確認してください。正しくインストールされていることを確認後、次のコマンドを実行してください。

```
<インストールディレクトリ>%setup%amitreg del  
<インストールディレクトリ>%setup%amitreg add
```

ESMPRO/ServerAgentを利用しない場合は設定の必要はありません。

## 2.5 JobCenter CL/Win をインストールする

JobCenter CL/Win(ビューワ)は、JobCenter MG(マネージャ)および JobCenter SV(サーバ)に接続する Windows GUI です。

インストールとセットアップは一連の流れで行われます。



**JobCenter CL/Win のインストールを行う前に現在動作中のすべてのアプリケーションを終了してください。ランタイムライブラリのインストールを円滑に行うために必要です。**

### 2.5.1 通常インストール

#### 2.5.2 サイレントインストール

## 2.5.1 通常インストール

- ① JobCenter メディア(CD-ROM)をセットします。

Windows の [スタート] - [ファイル名を指定して実行] を選択します。次のファイル名を指定して、[OK] ボタンを選択します。

- Q:¥PACKAGE¥JB¥WINDOWS¥CLWIN¥clsetup.exe

**備考** CD-ROM ドライブを Q: ドライブとして説明します。CD-ROM ドライブを他のドライブ名に割り当てている場合は、適宜読み替えてください。

- ② セットアップ開始画面が表示されますので、[次へ(N)>] ボタンをクリックします。



- ③ JobCenter CL/Win で使用する言語(日本語または英語)を選択し、[次へ(N)>] ボタンをクリックします。




- ④ JobCenter CL/Win をインストールするフォルダを選択します。

インストール先のフォルダの初期値は、「C:¥JobCenter¥CL」となっています。

インストール先のフォルダを変更する場合には、[参照(R)...] ボタンをクリックし、画面の指示に従ってインストール先のフォルダを選択し、[OK] ボタンをクリックします。

インストール先を決定後、[次へ(N)>] ボタンをクリックします。

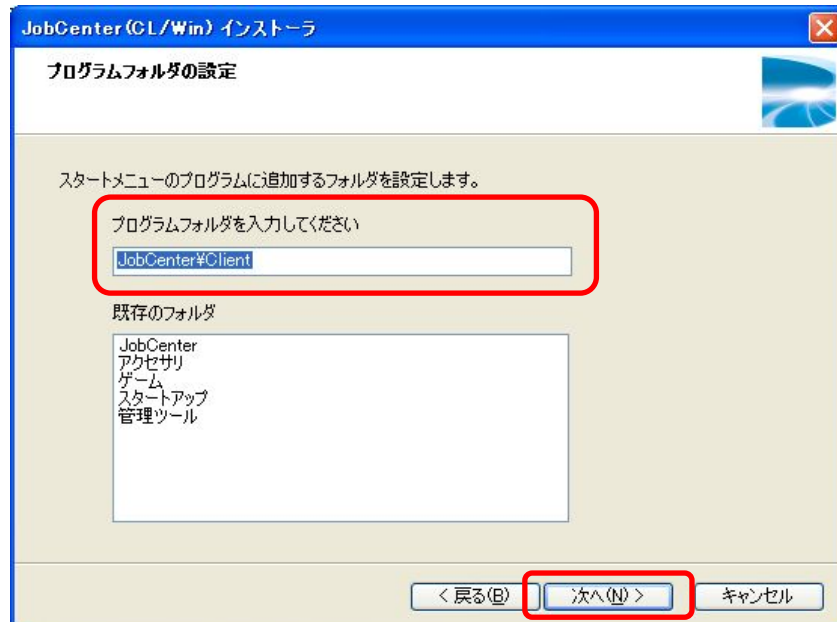


 インストールフォルダ名にタブおよび「%」、「(」、「)」、「^」、「;」、「&」、「=」、「,」などの特殊文字は使用できません。

 Windows Vista または Windows Server 2008 にインストールする場合は「C:¥Program Files¥」配下にインストールすることはできません。

- ⑤ JobCenter CL/Win のショートカットを格納するフォルダを選択します。

ショートカット作成先のフォルダの初期値は、「JobCenter¥Client」となっています。  
作成先のフォルダを変更するには [プログラムフォルダ] に任意のフォルダ名を入力します。  
フォルダの決定後、[次へ(N)>] ボタンをクリックします。





- ⑥ JobCenter CL/Win を利用する際に、次のいずれかのモードで利用するかを選択し、[次へ(N)>] ボタンをクリックします。

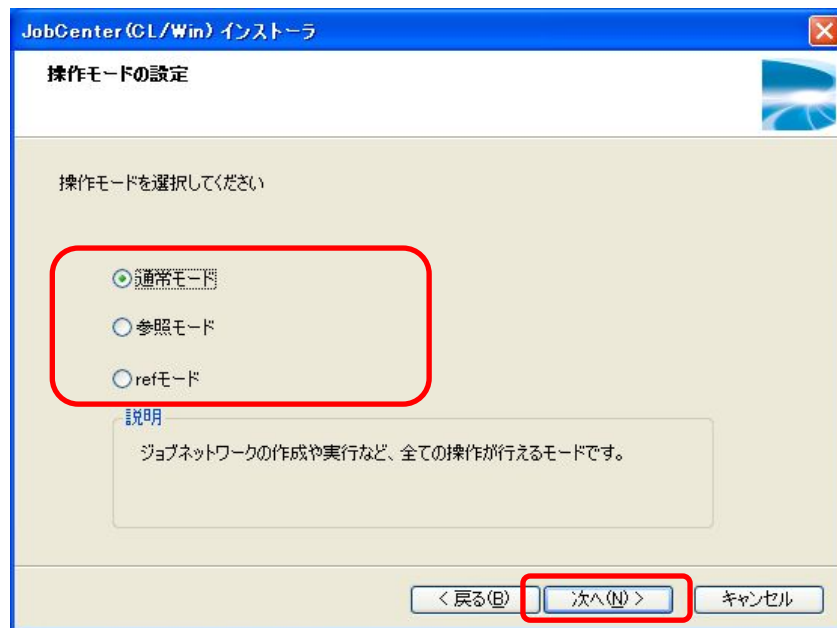


表 2-5 登録モードと操作可能範囲

登録モード	ジョブネットワークの作成、削除、変更	ジョブネットワークやジョブの制御
通常モード	○	○
参照モード	×	○
refモード	×	×

備考 ○ : 操作可能、× : 操作不可能

- ⑦ JobCenter CL/Win の起動直後によく利用するウィンドウを開くショートカットを選択し、[次へ(N) >] ボタンをクリックします。

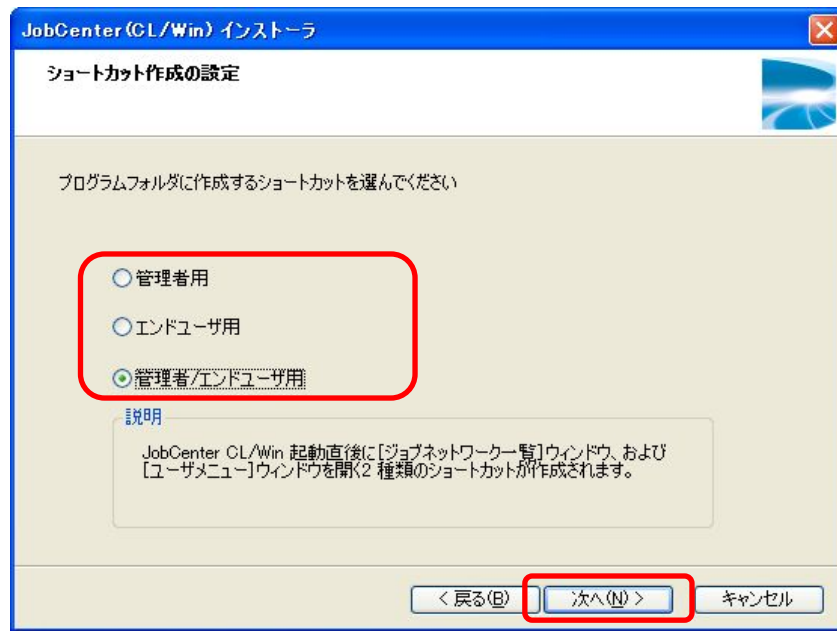


表 2-6 利用するウィンドウと作成されるショートカット

利用するウィンドウ	作成されるショートカット
管理者用	JobCenter CL/Win 起動直後に [ジョブネットワーク一覧] ウィンドウが開くようなショートカットが作成されます。
エンドユーザ用	JobCenter CL/Win 起動直後に [ユーザメニュー] ウィンドウが開くようなショートカットが作成されます。
管理者/エンドユーザ用	JobCenter CL/Win 起動直後に [ジョブネットワーク一覧] ウィンドウ、および [ユーザメニュー] ウィンドウを開く 2 種類のショートカットが作成されます。

- ⑧ JobCenter MG/SV と通信するためのポート(JCCOMBASE)を設定します。

サーバ側で使用するポートを変更していない場合は、[標準](611 番)を選択してください。

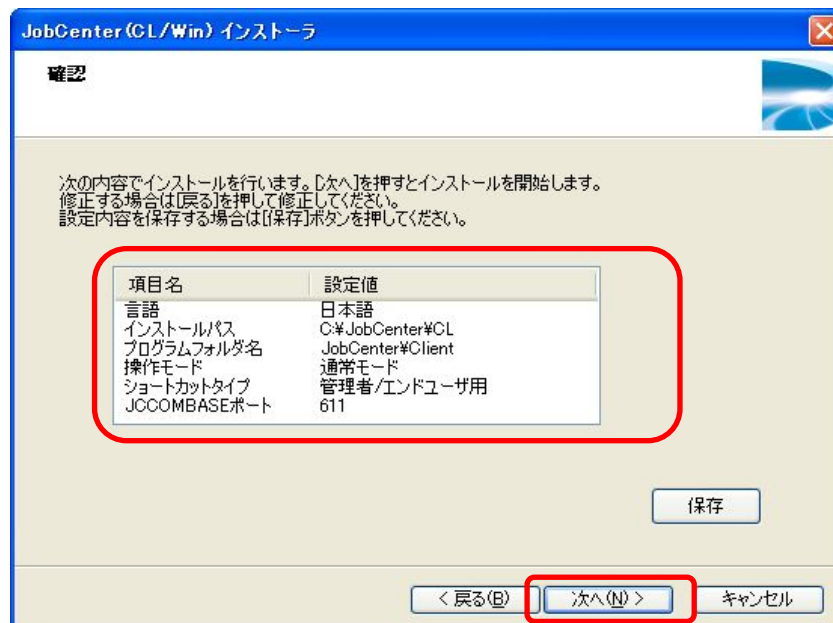
サーバ側でポートを変更している場合は、[カスタム]を選択し、ポートの値を入力してください。

設定が完了したら [次へ(N)>] ボタンをクリックします。

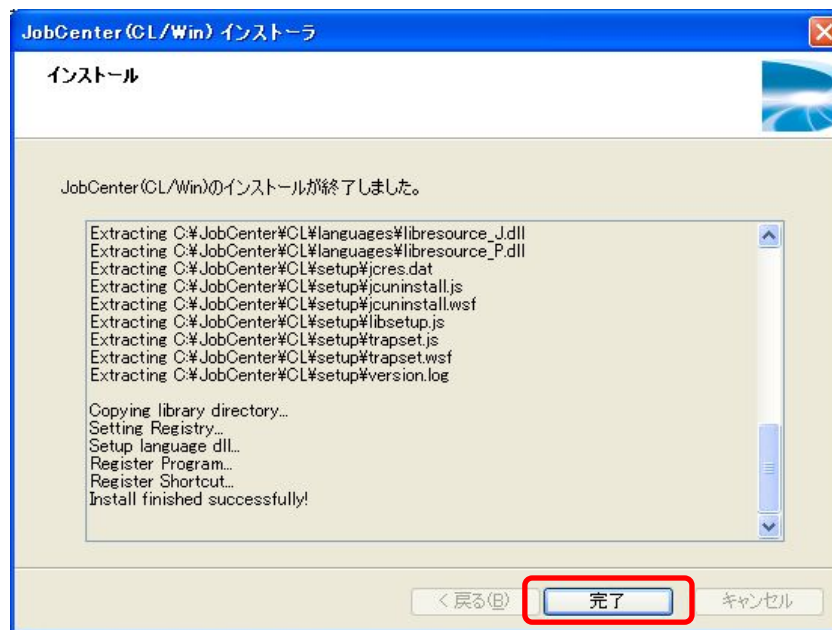


- ⑨ 設定した内容を確認し、問題がなければ[次へ(N)>]ボタンを押すことでインストールが開始されます。


設定内容を保存する場合は[保存]ボタンを押すことで設定内容を保存することができます。保存したファイルはサイレントインストールに使用することができます。




- ⑩ JobCenter(CL/Win)のインストールが完了すると[完了]ボタンが押せるようになりますので、  
[完了] ボタンをクリックし、セットアップを完了します。



## 2.5.2 サイレントインストール

 サイレントインストールを行う場合、あらかじめサイレントインストール用の設定ファイルを作成する必要があります。この設定ファイルは「2.5.1 通常インストール ⑨設定内容の確認」で作成することができます。

 Windows Server 2008 環境では、コマンドプロンプトを開く際に右クリックメニューの「管理者として実行」を選択して実行してください。

① JobCenter メディア(CD-ROM)をセットし、コマンドプロンプトを実行します。コマンドプロンプトは Windows の [スタート] - [プログラム] - [アクセサリ] から実行できます。

② 次のコマンドを打ち、カレントディレクトリを変更してください。

```
C:¥> Q:  
Q:¥> cd Q:¥PACKAGE¥JB¥WINDOWS¥CLWIN¥script↓
```

**備考** CD-ROM ドライブを Q: ドライブとして説明します。CD-ROM ドライブを他のドライブ名に割り当てている場合は、適宜読み替えてください。

③ 次のコマンドを打つことでインストールが開始されます。

```
> install.bat <clsetup.conf>↓
```

インストールが正しく完了すると「Install finished successfully!」と表示されます。

**備考** <clsetup.conf>には予め作成済みの設定ファイルのフルパスを入力してください。

## 3. 実行環境のセットアップ(UNIX 版)

JobCenter の実行環境のセットアップ(UNIX 版)を行います。

なお、Windows 版の場合はインストール時にセットアップも一連の流れで行われます。

### (1) JobCenter のセットアップ

<1> nssetup(セットアップ用のコマンド)を実行する

```
root> /opt/netshep/nssetup
```

ただし Linux の場合は、次のようになります。

```
> /usr/local/netshep/nssetup
```

もし、バージョンアップ等で以前の JobCenter のスプールディレクトリが存在する場合は以下のメッセージが出力されます(存在しない場合は何も出力されません)。既存のディレクトリを使用する場合は y を選択します(12.6 までと同じ動作です)。n を選択した場合は spool ディレクトリを消去して、新規のセットアップを開始します。spool ディレクトリの内容に関しては、リリースメモの「3.2.3(1) スプールディレクトリ(/usr/spool/nqs)」をご確認ください。

```
[Warning] JobCenter spool directory(/usr/spool/nqs) is already exist.  
Do you use the old spool directory? [y/n](default: n)
```

## &lt;2&gt; JobCenter のマシン ID を設定する

このコマンドを実行すると、ディレクトリが自動的に作成され、NQS マシン ID の入力待ちの状態となります。(マシン ID は 1 以上 2147483647 以下のシステム上で一意に決まる整数)

```
Setting NQS マシン ID.
INPUT: Machine-id of this machine (default:1)=
```

ここで、あらかじめ決めておいた NQS マシン ID を入力します。

(例)

```
INPUT: Machine-id of this machine (default:1)= 1234 ↵
```



JobCenter がインストールされているマシン間で、マシン ID(マシン ID)が重複しないようにしてください。デフォルトで「1」が設定されています。



このあと JobCenter が使用するポートを/etc/services に追加します。

- ◆ すでに別のアプリケーションで上記のポートを利用している場合には、ポート番号を 611 から変更して登録してください。なお、ここでポート番号を変更した場合には、連携する他のホストの/etc/services の記述を別途変更してください。
- ◆ 連携対象が Windows 版の場合は、次のレジストリキーのポート番号を変更してください(R12.x には対象の JobCenter のバージョンを当てはめてください)。

```
[HKEY_LOCAL_MACHINE] - [SOFTWARE] - [NEC] -
[JobCenter(CL/Win)] - [R12.x] - [ComBasePort] の値
```

**<3> JobCenter を使用する言語環境を選択する**


OS がセットアップされている言語環境とは独立して JobCenter が動作する際の言語環境を選択することができます。このマシンで起動・設定する GUI およびジョブネットワークは、ここで選択した文字コード以外では使用できません。


```
Select language code for JobCenter.
0 - English
1 - EUC
2 - Shift-JIS (MS-kanji)
3 - Chinese (GB18030)
4 - JP.UTF-8
Which language code do you use in this system ? (0/[1]/2/3/4)
```

スクリプト内で環境変数 LANG の設定値を変更したり、スクリプト実行用シェルの LANG 初期値が異なっていた場合、文字化けが発生する可能性がありますので注意してください(デフォルトで選択されている文字コードは、環境変数 LANG の値によって異なります)。

(例)

```
Which language code do you use in this system ? (0/[1]/2/3/4) 1 ↵
```

 ここで選択した文字コードでセットアップした後にジョブネットワークやスケジュール等を作成した場合、(全てアルファベットと数字を用いて設定した場合を除き)他の言語環境の JobCenter への設定データの移行はできませんので、言語環境の選択には十分注意して下さい。

 JP.UTF-8(UNICODE環境)を使用する場合、いくつかの注意事項がありますので「2.1.1 注意事項の事前確認」を参照の上で設定を行ってください。

**<4> UMS 環境を設定する**

ここでは、JobCenter の管理者である nsumsmgr というユーザのアカウントを新たに自動的に作成するかどうかをたずねるメッセージが表示されます。ただし、すでに nsumsmgr というユーザが存在する場合には、このメッセージは表示されません。

```
Start NQS daemon.
making UMS environment..
JobCenter needs new user "nsumsmgr".
Do you want to create user "nsumsmgr" automatically ? ([y]/n)
```



- 管理者ユーザを作成する場合

y を入力しリターンキーを押し、セットアップを続けます。

システムの状態が調べられ、次のように出力されます(ユーザ ID などはマシンごとに異なる場合があります)。

```
Create new user "nsumsmgr" as following:
(1)USER ID : 738 (nsumsmgr)
(2)GROUP ID : 1 (other)
(3)HOME DIRECTORY : /home/nsumsmgr
SHELL : /sbin/sh
COMMENT : JobCenter manager
OK? (y/1/2/3/q) :
```

上から順に、(1)ユーザID、(2)グループID、(3)ホームディレクトリ、シェル、コメントと並んでいます。このうち、変更できるのは、ユーザID、グループID、ホームディレクトリの3つです。

修正したい箇所の( )内の数字を入力してリターンキーを押すことで、修正モードに入ります。次の「<5>管理者ユーザの設定を変更する」に進んでください。

現在の設定でよければ、yを入力してリターンキーを押して、「<6>パスワードを設定する」に進んでください。なんらかの理由で作業を中断する場合は、qを入力してリターンキーを押してください。

- 管理者ユーザの設定を自動で行わない場合

n を入力しリターンキーを押します。

NIS 運用されている環境にインストールする場合や上記の条件に当てはまらないなどの理由により、管理者ユーザの設定を自動で行わない場合には、次のメッセージが表示されてインストール(セットアップ)は終了となります。

```
You must create new user nsumsmgr manually,
And execute "/usr/lib/nqs/gui/bin/mkumseenvsh" .
```



ここで管理者の設定を行わなかった場合には、インストール後に必ず設定を行ってください。

### <5> 管理者ユーザの設定を変更する

- ユーザ ID の変更

```
OK? (y/1/2/3/q) : 1
```

ここに、1 を入力してリターンキーを押すと、次のようにユーザ ID をたずねるメッセージが表示されます。

```
Set USER ID: 500
```

設定したいユーザIDを入れると、そのユーザIDがすでに使用されていないかを調べます。

すでに使用されていれば、次のメッセージが出力され、もう一度別のユーザ ID を入力するように求められます。

```
USER ID: 500 is already in use.  
Set USER ID:
```

入力したユーザ ID に問題なければ、次の画面に戻ります(ここでは、ユーザ ID を 738 から 501 に変更しています)。

```
Create new user "nsumsmgr" as following:  
(1)USER ID : 501 (nsumsmgr)  
(2)GROUP ID : 1 (other)  
(3)HOME DIRECTORY : /home/nsumsmgr  
SHELL : /sbin/sh  
COMMENT : JobCenter manager  
OK? (y/1/2/3/q) :
```

#### グループ ID の変更

```
OK? (y/1/2/3/q) :2
```

前の画面(ユーザ ID 変更の完了画面)で 2 を入力し、リターンキー押すことでグループ ID の修正モードに入ります。最初に次のメッセージが表示されます。

```
Possible GROUP ID is following:  
root : 0  
other : 1  
bin : 2  
sys : 3  
.  
.  
Set GROUP ID:
```

グループ ID は、存在しているグループ ID にのみ変更できるため、現在設定されているグループ ID のリストがまず表示され、最後にグループ ID の入力を求めるメッセージが出力されます。グループ ID のリストを見て、正しい ID を入力してください。

- ホームディレクトリの変更

```
OK? (y/1/2/3/q) :3
```

ユーザ ID 変更の完了画面で 3 を入力して、リターンキー押すことで、設定するディレクトリを次のように聞いてきます。

```
Set directory:
```

適切なディレクトリを入力してください。

すでに存在しているディレクトリを入力した場合、次のようなメッセージが表示されます。

```
Directory "/home/nsumsmgr" exists.  
OK? (y/[n]) :y
```

ここで y を入力してリターンキーを押すと、そのディレクトリに変更することができます。



#### 注意事項

- (3)ホームディレクトリに既存のディレクトリを指定した場合は、そのディレクトリ下の全てのファイルとディレクトリの所有者は、管理者ユーザのユーザ ID とグループ ID に変更されます。
- Linux 機や AIX 機では、ホームディレクトリを変更した場合、デフォルトのホームディレクトリも作成される場合があります。そのシステムのデフォルトのホームディレクトリを確認し、不要な nsumsmgr ディレクトリが存在する場合は、手動で削除してください。

## &lt;6&gt; パスワードを設定する

```
OK? (y/[n]) :y
```

画面の(1), (2), (3)項の変更が完了し、yを入力してリターンキーを押すと、パスワードの設定に移ります。次のように表示されたら、新しいパスワードを入力してください。

```
Set password of "nsumsmgr"
New password: xxxxxxxx
```

入力が終了すると、次のように再度パスワードの確認を求めるメッセージが表示されますので、同じパスワードを入力してください。

```
Re-enter new password: xxxxxxxx
```



**HP-UX ではパスワードのないアカウントに対してリモートシェルが実行できません。その場合、マネージャからのセットアップが正しくできなくなります。また、セキュリティ上の問題もありますので、パスワードは必ず設定してください。**

パスワード設定まで終了すると、ユーザ nsumsmgr のアカウントの設定が終了したことを知らせるメッセージが表示されます。

```
Complete to create new user "nsumsmgr".
Start making ".rhosts".
Input official host name of UMS machine:
```

## &lt;7&gt; .rhosts ファイルを設定する

```
Input official host name of UMS machine:
```

.rhosts ファイルに UMS が動作するホスト名(マネージャのホスト名)を登録します。UMS がインストールされたホスト名を正式名称で入力してください。エイリアス名でなく、正式な名称で入力してください。たとえば、hostname.domain.co.jp と入力すると、次のような確認のメッセージが表示されます。

```
Host name is "hostname.domain.co.jp". OK? ([y]/n)
```

yを入力してリターンキーを押すと、次に進みます。

nを入力してリターンキーを押すと、ホスト名の再入力ができます。

最後に、NetShepherd 管理者リストにユーザ nsumsmgr を追加登録して管理者ユーザ設定は終了です。

次のメッセージが表示され、セットアップは終了します。

```
Start adding to qmgr.Complete adding to qmgr
```

## (2) BASECenter(MG)を使用する場合

JobCenter MG のセットアップ完了後、SystemScope のドロップインアイコンの登録のために ssEventD を次の手順で再起動します。

```
> /opt/OV/bin/ovstop ssEventD  
> /opt/OV/bin/ovstart ssEventD
```

また、JobCenter MG のパッケージを削除した場合にも、同様に再起動を行います。

## (3) AIX で BASECenter を使用してイベント連携を行う場合

AIX に JobCenter と BASECenter がインストールされている場合、ジョブネットワークイベント送信デモンを置き換える必要があります。

次の手順で行います。詳細については、「JobCenter 環境構築ガイド 11.3.1 BASECenter を用いた連携」を参照してください。

- ① JobCenter サービス停止します。

```
> /usr/lib/nqs/nqsstop
```

- ② ファイルを退避します。

```
> /usr/bin/cp -p /usr/lib/nqs/jnwcaster /usr/lib/nqs/jnwcaster.bk
```



**BASECenter 以外のイベント連携を行う場合は、jnwcaster ファイルを元に戻す必要があるため、必ずファイルを退避してください。**

- ③ ファイルを置換します。

```
> /usr/bin/cp -p /usr/lib/nqs/jnwcasterBASE /usr/lib/nqs/jnwcaster
```

- ④ JobCenter サービス開始します。

```
> /usr/lib/nqs/nqsstart
```

---

---

# 4. アンインストール

---

---

LicenseManager, JobCenter MG/SV および JobCenter CL/Win のアンインストール方法を説明します。

- 
- 4.1 LicenseManagerをアンインストールする
  - 4.2 JobCenter MG, JobCenter SVをアンインストールする
  - 4.3 JobCenter CL/Winをアンインストールする

## 4.1 LicenseManager をアンインストールする

4.1.1 UNIX版

4.1.2 Windows版

### 4.1.1 UNIX 版

LicenseManager と依存関係にあるプロダクトがある場合は先にそれをアンインストールしてください。JobCenter も LicenseManager に依存しているので、LicenseManager をアンインストールする場合には JobCenter を先にアンインストールしてください。



依存関係にあるパッケージを削除せずに LicenseManager をアンインストールした場合、依存関係にあるプロダクトの動作に影響を与える恐れがあります。

ログイン名"root"でログインします。

```
login:root ↵
```

以降の OS ごとの説明では\_\_部分(下線部分)をキーボードから入力してください。

#### <1> HP-UX 版

- ① 次のコマンドを実行します。本パッケージが削除されます。

```
root> /usr/sbin/swremove NECWSLM ↵
```

コマンドが正常終了したのを確認してください。パッケージの削除は正常に終了しています。

- ② 確認のため次のコマンドを実行します。

```
root> /usr/sbin/swlist NECWSLM
```

- ③ 次のメッセージが表示されれば、本パッケージは正常に削除できています。

```
Software "NECWSLM" was not found on host "hostname:/"
```

#### <2> Solaris 版

- ① 次のコマンドを実行してください。本パッケージが削除されます。

```
root> /bin/pkgrm NECWSLM ↵
```

パッケージの削除実行中に確認を求めるメッセージが表示されますが、いずれも y を入力してください。

- ② 次のメッセージが表示されればパッケージの削除は正常に終了しています。

```
Removal of <NECWSLM> was successful.
```

- ③ 確認のため次のコマンドを実行してください。

```
root> /bin/pkginfo NECWSLM
```

- ④ 次のメッセージが表示されれば、本パッケージは正常に削除できています。



### <3> Linux 版

- ① 次のコマンドを実行してください。本パッケージが削除されます。

```
root> /bin/rpm -e NECWSLM ↵
```

- ② 次のメッセージが表示されれば、本パッケージは正常に削除できています。

```
*****now removing *****
Uninstallation was successful.
```



### 4.1.2 Windows 版

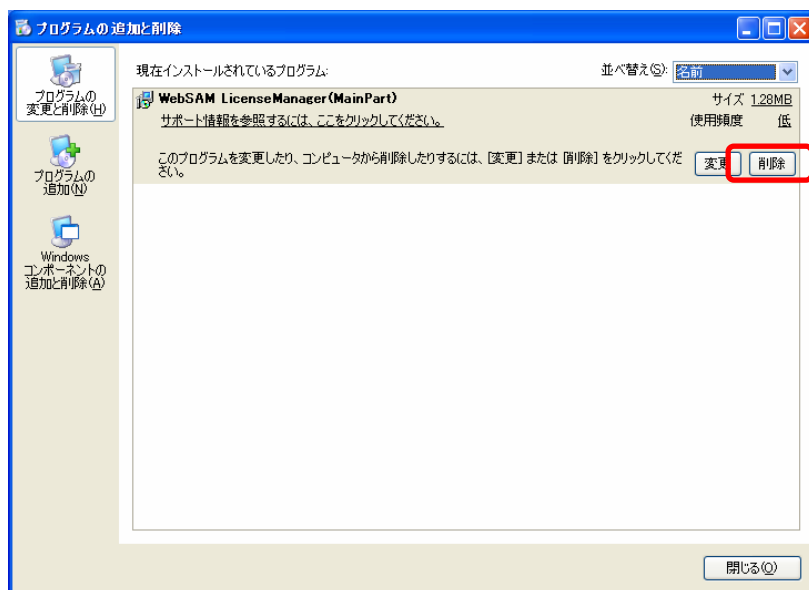
LicenseManager と依存関係にあるパッケージがある場合は先にそれをアンインストールしてください。JobCenter も LicenseManager に依存しているので、LicenseManager をアンインストールする場合には JobCenter を先にアンインストールしてください。



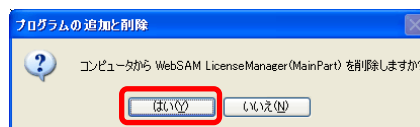
**依存関係にあるパッケージを削除せずに LicenseManager をアンインストールした場合、依存関係にある製品の動作に影響を与える恐れがあります。確認をお願いします。**

次の手順に従って LicenseManager(MainPart)パッケージの削除を行います。

- ① マシンを立ち上げ Administrator 権限のあるユーザでログインしてください。
- ② Windows の [スタート] - [コントロールパネル] で「プログラムの追加と削除」を実行し、次の画面を表示させます。[削除] ボタンをクリックします。



- ③ 次の画面が表示されます。[はい] ボタンをクリックして、パッケージの削除を行います。



- ④ 「プログラムの追加と削除」画面を再度表示し、「WebSAM LicenseManager(Main Part)」のエントリが存在しなければパッケージの削除は完了です。

## 4.2 JobCenter MG, JobCenter SV をアンインストールする

4.2.1 UNIX版

4.2.2 Windows版

### 4.2.1 UNIX 版

#### (1) パッケージを削除する

表 4-1を参考に、JobCenterのパッケージを削除してください。

削除するパッケージは、OS別にJobCenterの種別(MGやSV)によって異なりますので、実際にインストールされているパッケージ名を確認してから削除してください。パッケージ名の確認方法は、6章の「バージョンの確認方法(UNIX版)」をご覧ください。

表 4-1 削除が必要なパッケージ名とパッケージ削除コマンド OS 別一覧

OS	削除が必要なパッケージ名	パッケージ削除コマンド
HP-UX	NECJCpkg(12.7 以降)	swremove <pkgname>
	NECJCpt(12.7 以降) 注	
	NECSSJBmg(12.7 以前)	
	NECSSJBag(12.7 以前)	
	NECSSJBpt(12.7 以前) 注	
Solaris	NECJCpkg(12.7 以降)	pkgrm <pkgname>
	NECJCpt(12.7 以降) 注	
	NECSSJBmg(12.7 以前)	
	NECSSJBag(12.7 以前)	
	NECSSJBpt(12.7 以前) 注	
AIX	NECJCpkg(12.7 以降)	installp -u <pkgname>
	NECJCpt(12.7 以降) 注	
	NECSSJBag(12.7 以前)	
	NECSSJBpt(12.7 以前) 注	
Linux	NECJCpkg(12.7 以降)	rpm -e <pkgname>
	NECJCpt(12.7 以降)	
	NECSSJBag(12.7 以前)	
	NECSSJBpt(12.7 以前) 注	

注 パッチを適用しているシステムのみ削除が必要です。削除の際は、他のパッケージよりも先に削除する必要があります。

#### (2) NQS 関連のデータを削除する

NQS 関連のデータを削除する場合は、次のディレクトリを削除してください。

- /usr/spool/nqs

### (3) ユーザ関連のデータを削除する

ユーザ関連のデータ(ローカルサイト)を削除する場合は、次のディレクトリを削除してください。

- <ユーザのホームディレクトリ>/NetShepEUI

### (4) クラスタ関連のデータを削除する

クラスタ関連のデータを削除する場合は、次のディレクトリを削除してください。(クラスタ上のユーザデータも削除されます)

- <クラスタ DB パス>/nqs

## 4.2.2 Windows 版

以下の操作は Administrator 権限のあるユーザでログインしてから実施してください。

**備考** %InstallDirectory%は JobCenter 本体のインストールディレクトリを表します。(既定値は C:¥JobCenter¥SV)

### (1) パッケージを削除する

JobCenter のバージョンによってパッケージの削除方法が異なります。

#### <1> JobCenter(MG/SV)R12.8 以降の場合

Windows の [スタート] - [コントロールパネル] - [プログラムの追加と削除] を選択し、表示される画面で JobCenter(MG/SV) R12.x を選択、[変更と削除] をクリックします。(R12.x には対象の JobCenter のバージョンを当てはめてください)。



#### <2> JobCenter(SV/NT)R7.1 以降の場合

Windows の [スタート] - [すべてのプログラム] - [JobCenter] - [SV] - [アンインストール] を実行します。

JobCenter SV のアンインストールでは、スタートメニューの [JobCenter] グループを削除できない場合があります。アンインストール後、新たなバージョンをインストールしない場合には、別途スタートメニューの [JobCenter] を削除してください。

#### <3> JobCenter(SV/NT)R4.1 以前(NetShepherd 系)の場合

アンインストール対象の JobCenter(または NetShepherd)のインストールメディアに含まれている、JobCenter のパッケージ削除のコマンド svuninst.exe を実行します。

## (2) NQS 関連のデータを削除する

NQS 関連のデータを削除する場合は、次のディレクトリを削除してください。

### <1> JobCenter(MG/SV)R12.8 以降の場合

- %InstallDirectory%\%etc
- %InstallDirectory%\%spool%\nmap
- %InstallDirectory%\%spool%\new
- %InstallDirectory%\%spool%\private
- %InstallDirectory%\%spool%\scripts

### <2> JobCenter(MG/SV)R12.7 以前の場合

- %InstallDirectory%\%etc
- %InstallDirectory%\%nmap
- %InstallDirectory%\%spool

## (3) ユーザ関連のデータを削除する

ユーザ関連のデータを削除する場合は、次のディレクトリを削除してください。

### <1> JobCenter(MG/SV)R12.8 以降の場合

- %InstallDirectory%\%spool%\users\<ユーザ名>

### <2> JobCenter(MG/SV)R12.7 以前の場合

- %InstallDirectory%\%inwexe%\%spool\<ユーザ名>

## (4) レジストリ関連のデータを削除する

レジストリ関連のデータを削除する場合は、次の手順を行います。

- ① Windows の [スタート] – [ファイル名を指定して実行] で表示されるダイアログに「regedit」と入力し、[OK] ボタンをクリックします。レジストリエディタの画面が表示されます。
- ② レジストリエディタの左の画面で次のキーを選択し、右クリックしたときのポップアップメニューから削除を選択します。
  - HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\NEC\NetShepherd/SV

## (5) 環境変数の設定を削除する

JobCenter をクラスタで使用していた場合、環境変数 NQS\_SITE の設定の有無を確認し、NQS\_SITE が設定されていた場合は削除してください。

## 4.3 JobCenter CL/Win をアンインストールする

### 4.3.1 パッケージを削除する

### 4.3.2 レジストリ関連のデータを削除する

### 4.3.1 パッケージを削除する

以下の操作は Administrator 権限のあるユーザでログインしてから実施してください。

Windows の [スタート] - [コントロールパネル] - [プログラムの追加と削除] を選択し、表示される画面で JobCenter(CL/Win)を選択、[変更と削除] をクリックします。



### 4.3.2 レジストリ関連のデータを削除する

レジストリ関連のデータを削除する場合は、次の手順を行います。

- ① Windows の [スタート] - [ファイル名を指定して実行] で表示されるダイアログに「regedit」と入力し [OK] ボタンをクリックします。レジストリエディタの画面が表示されます。
- ② レジストリエディタの左の画面で次のキーを選択し、右クリックしたときのポップアップメニューから削除を選択します(R12.x には対象の JobCenter のバージョンを当てはめてください)。
  - HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥JobCenter(CL/Win)¥R12.x

---

---

## 5. バージョンアップ

---

---

JobCenter のバージョンアップ方法を説明します。

---

5.1 UNIX版

5.2 Windows版

---

## 5.1 UNIX 版

---



### 注意事項

- ◆ アンインストール時、ユーザが作成したジョブネットワークの定義データは引き継がれます。ただし、実行中のリクエストやトラックは引き継げません。また、独自に作成していたキューや、リクエスト転送先のマシン情報、ユーザマッピングなどのNQS関連の設定値はすべて削除されますので、新しいバージョンをインストールしたあと再設定を行う必要があります。NQS関連の設定も引き継ぎたい場合は、「5.1.2 NQS関連のデータ引き継ぎ」を参照してください。
- ◆ R12.5 以降には共有ジョブネットワークがありません。したがって、R12.4.x 以前の JobCenter から R12.5 以降にバージョンアップする際には、前バージョンの共有ジョブネットワーク中の全ジョブネットワークを、適当なユーザのジョブネットワークグループに移動してからバージョンアップしてください。

---

5.1.1 バージョンアップ

5.1.2 NQS関連のデータ引き継ぎ

### 5.1.1 バージョンアップ

---

新しいバージョンの JobCenter をインストールする前に古いバージョンの JobCenter のパッケージを削除する必要があります。

パッケージの削除方法については、「4.2.1 (1) パッケージを削除する」を参照してください。



## 5.1.2 NQS 関連のデータ引き継ぎ

NQS 関連のデータを引き継ぎたい場合は、次の手順で作業を行います。

- ① JobCenter を停止して、次のディレクトリ配下のファイルをバックアップします。

```
/usr/spool/nqs/nmap
```

```
/usr/spool/nqs/private
```

- ② 旧バージョンのJobCenterのパッケージを削除します。削除方法に関しては、「4.2.1 UNIX版」を参照してください。なお「(2)NQS関連のデータを削除する」は必ず実行してください。
- ③ 新しいバージョンの JobCenter をインストールします。/opt/netshep/nssetup により実行環境を一旦セットアップしたあと、/usr/lib/nqs/nqsstop で JobCenter を停止させます。
- ④ あらかじめ①でバックアップしておいた、/usr/spool/nqs/nmap、/usr/spool/nqs/private 配下のファイルをリストアします。ただし、次のファイルがあった場合はリストア後に削除します。
  - /usr/spool/nqs/private/root/transfile
  - /usr/spool/nqs/private/root/control/(ディレクトリ)<sup>※</sup> /配下の全ファイル
  - /usr/spool/nqs/private/root/data/(ディレクトリ)<sup>※</sup> /配下の全ファイル
  - /usr/spool/nqs/private/root/tracking/配下の全ファイル

**注** (ディレクトリ)という表記はそこに存在するすべてのディレクトリを指します。ディレクトリを削除するという意味ではないので注意してください。内部のファイルのみ削除してください。

- ⑤ /usr/lib/nqs/nqsstart で JobCenter を起動します。

以上で、JobCenter のバージョンアップ作業は終了です。



### 注意事項

- ◆ 自ホスト名を変更する場合は、ジョブネットワークの定義情報のみ引き継ぐことができます。引継ぎの方法については、環境構築ガイドの「環境移行」の章をご覧ください。
- ◆ バージョンダウンの場合、設定内容の引き継ぎはできません。

---

## 5.2 Windows 版

---



### 注意事項

- ◆ アンインストール時、ユーザが作成したジョブネットワークの定義データは引き継がれます。ただし、実行中のリクエストやトラックは引き継ぎません。また、独自に作成していたキューや、リクエスト転送先のマシン情報、ユーザマッピングなどのNQS関連の設定値はすべて削除されますので、新しいバージョンをインストールしたあと再設定を行う必要があります。NQS関連の設定も引き継ぎたい場合は、「5.2.2 NQS関連のデータ引き継ぎ」を参照してください。
- ◆ R12.5 以降には共有ジョブネットワークがありません。したがって、R12.4.x 以前の JobCenter から R12.6 以降にバージョンアップする際には、前バージョンの共有ジョブネットワーク中の全ジョブネットワークを、適当なユーザのジョブネットワークグループに移動してからバージョンアップしてください。

---

5.2.1 バージョンアップ

5.2.2 NQS関連のデータ引き継ぎ

---

### 5.2.1 バージョンアップ

---

旧バージョンの JobCenter のバージョンによってバージョンアップ方法が異なります。

#### (1) JobCenter(SV/NT)R4.1 以前(NetShepherd 系)の場合

- ① 旧バージョンの JobCenter(または NetShepherd)のインストールメディアに含まれている JobCenter のパッケージ削除のコマンド `svuninst.exe` を実行します。
- ② パッケージ削除後、新しいバージョンの JobCenter をインストールします。

#### (2) JobCenter(SV/NT)R7.1 以降の場合

- ① Windows の [スタート] - [すべてのプログラム] - [JobCenter] - [SV] - [アンインストール] を実行します。
- ② パッケージ削除後、新しいバージョンの JobCenter をインストールします。

#### (3) JobCenter(SV/NT)R12.2 以降の場合

「2.4.5 (3) JobCenterがすでにインストールされている場合」を参照してバージョンアップを行ってください。

バージョンアップ実行後は、Windows の [スタート] - [すべてのプログラム] - [JobCenter] - [SV] - [サーバの環境設定] から [ユーザ] を選択して、各ユーザのパスワード欄が「OK」となっているのを確認してください。「Not Set」となっているユーザが存在したら、ユーザ名およびパスワードを再入力してパスワード欄が「OK」となるのを確認してください。

**注意事項**

- ◆ MSFC(MSCS)クラスタ環境の場合、前のバージョンを削除して新しいバージョンをインストールする際に、特別な手順で行う必要があります。  
詳細については、マニュアル「クラスタ機能利用の手引き」を参照してください。
- ◆ 前バージョンの JobCenter をクラスタで運用していた場合、アンインストール後に環境変数 NQS\_SITE の設定の有無を確認し、設定されていた場合は削除してください。環境変数 NQS\_SITE が設定されていると、新しいバージョンの JobCenter のセットアップは正常に実行できません。

## 5.2.2 NQS 関連のデータ引き継ぎ

---

NQS 関連のデータを引き継ぎたい場合は、次の手順で作業を行ってください。

**備考** %InstallDirectory% は JobCenter 本体のインストールディレクトリを表します。(既定値は C:¥JobCenter¥SV)

- ① コントロールパネルのサービスから、JobCenter 関連のサービスを次の順番で停止させます。

バージョンによっては存在していないサービスもあります。その場合、そのサービスの停止はスキップして次のサービスを停止させてください。

- Sclaunch Service
- Comagent Service
- jnwengine service
- NetShepherd

- ② 次のディレクトリ配下のファイルをバックアップします。

- %InstallDirectory%¥etc
- %InstallDirectory%¥nmap
- %InstallDirectory%¥spool¥private¥root

- ③ 旧バージョンの JobCenter のパッケージを削除します。削除方法に関しては、「4.2.2 Windows版」を参照してください。なお「(2)NQS関連のデータを削除する」は必ず実行してください。

- ④ 新しいバージョンの JobCenter をインストール後、マシンを再起動します。

⑤ マシン再起動後、コントロールパネルのサービスから JobCenter 関連のサービスを停止します。

- JobCenter Service

⑥ バックアップしておいたファイルをそれぞれ次の場所にリストアします。

バックアップ元	リストア先
%InstallDirectory%\etc	%InstallDirectory%\etc
%InstallDirectory%\nmap	%InstallDirectory%\spool\nmap
%InstallDirectory%\spool\private\root	%InstallDirectory%\spool\private\root

⑦ 次のファイルがあった場合はリストア後に削除してください。

- %InstallDirectory%\spool\private\root\transfile
- %InstallDirectory%\spool\private\root\control\\*(ディレクトリ)\* 配下の全ファイル
- %InstallDirectory%\spool\private\root\data\\*(ディレクトリ)\* 配下の全ファイル
- %InstallDirectory%\spool\private\root\tracking\\* 配下の全ファイル

注 (ディレクトリ)という表記はそこに存在するすべてのディレクトリを指します。ディレクトリを削除すると言う意味ではないので注意してください。内部のファイルのみ削除してください。

⑧ コントロールパネルのサービスから JobCenter 関連のサービスを起動します。

- JobCenter Service

以上で、JobCenter のバージョンアップ作業は終了です。



#### 注意事項

- ◆ 自ホスト名を変更する場合、ジョブネットワークの定義情報に関しては、jnwopコマンドで変換することによりデータを引き継ぎます。しかしながら、NQS関連の引き継ぎは行うことができません。このような場合は、「5.2.1 バージョンアップ」の手順に従ってバージョンアップしてください。
- ◆ バージョンダウンの場合、設定内容の引き継ぎはできません。

---

---

## 6. バージョンの確認方法

---

---

JobCenter のバージョン確認方法を説明します。

---

6.1 UNIX版

6.2 Windows版

## 6.1 UNIX 版

UNIX 版の製品のバージョンの確認は、コマンドを用いて行います。

### 6.1.1 JobCenter MG/SV

#### 6.1.1 JobCenter MG/SV

以下の表に示すコマンドを例にパッケージのバージョンを確認します。

パッチが適用されている環境では、NECSSJBpt のパッケージのバージョン番号を必ず確認するようにしてください。また、12.7 以降と 12.7 以前はパッケージ名が異なりますので注意してください。

表 6-1 JobCenter のバージョン確認コマンド OS 別一覧

OS	確認対象のパッケージ名	バージョン確認コマンド例
HP-UX	NECJCpkg(12.7 以降)	swlist <pkgname>
	NECJCpt(12.7 以降)	
	NECSSJBmg(12.7 以前)	
	NECSSJBag(12.7 以前)	
	NECSSJBpt(12.7 以前)	
Solaris	NECJCpkg(12.7 以降)	pkginfo -l <pkgname>
	NECJCpt(12.7 以降)	
	NECSSJBmg(12.7 以前)	
	NECSSJBag(12.7 以前)	
	NECSSJBpt(12.7 以前)	
AIX	NECJCpkg(12.7 以降)	lspp -L NECSSJB*
	NECJCpt(12.7 以降)	
	NECSSJBag(12.7 以前)	
	NECSSJBpt(12.7 以前)	
Linux	NECJCpkg(12.7 以降)	rpm -q <pkgname>
	NECJCpt(12.7 以降)	
	NECSSJBag(12.7 以前)	
	NECSSJBpt(12.7 以前)	

## 6.2 Windows 版

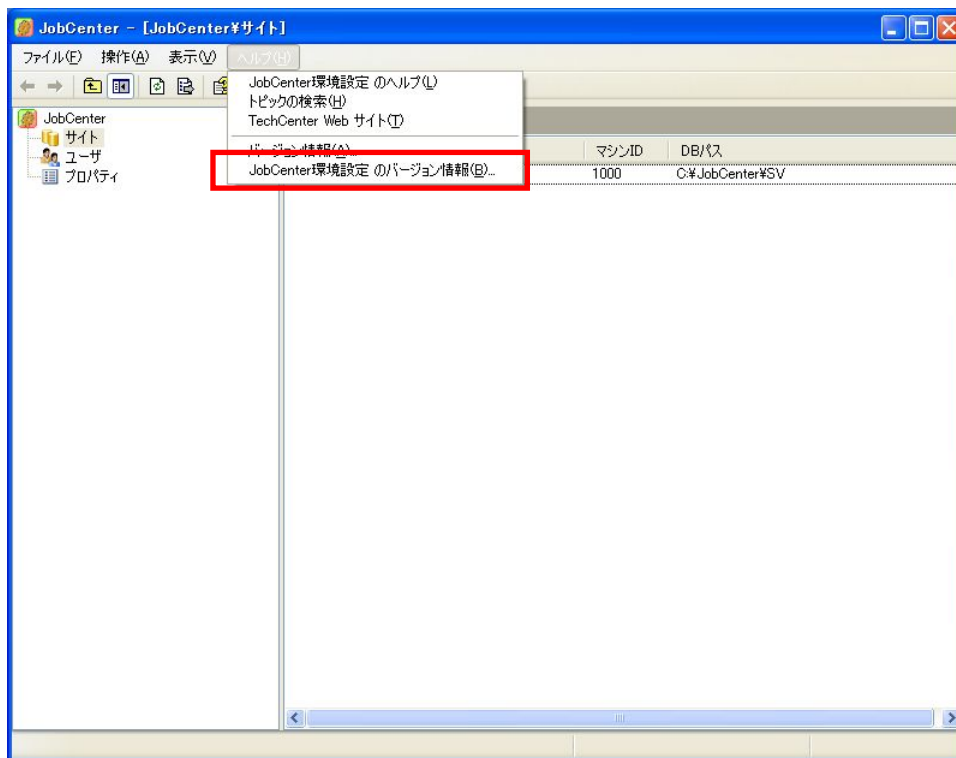
Windows 版の製品のバージョンの確認は、GUI を用いて行います。

6.2.1 JobCenter SV

6.2.2 CL/Win

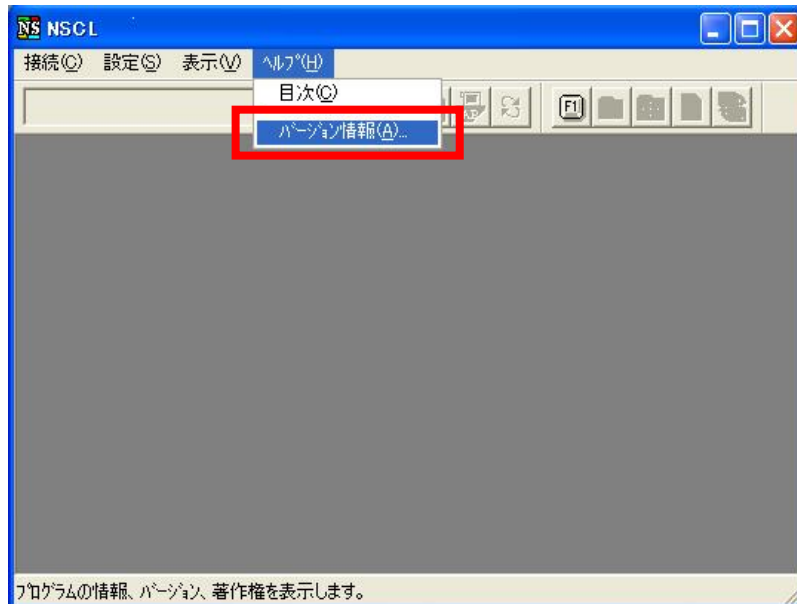
### 6.2.1 JobCenter SV

- ① Windows の [スタート] から、 [すべてのプログラム] - [JobCenter] - [SV] - [サーバの環境設定] を実行します。
- ② [JobCenter サーバの環境設定] ダイアログが表示されたら、 [ヘルプ] - [JobCenter 環境設定のバージョン情報] ボタンを押すことによってバージョン情報を確認することができます。



## 6.2.2 CL/Win

- ① Windows の [スタート] から、 [すべてのプログラム] - [JobCenter] - [Client] - [JobCenter クライアント] を実行します。
- ② CL/Win のウィンドウが表示し、メニューバーから[ヘルプ] - [バージョン情報]を選択することによってバージョン情報を確認することができます。





# 索引

## [.]

.rhosts … 70

## [3]

32-bit Compatibility Layer … 37

## [A]

AIX … 71

AIX 版 … 25, 39

## [B]

BASECenter … 71

BASECenter(MG) … 71

## [H]

HP-UX 版 … 18, 35, 73

## [I]

IA-32 Execution Layer … 37

IA-64 システム … 37

## [J]

JobCenter … 37, 54, 64, 66

JobCenter CL/Win … 56, 80

JobCenter MG … 35, 76

JobCenter SV … 76

JobCenter (SV) R12.2 … 84

JobCenter (SV/NT) R4.1 … 78, 84

JobCenter (SV/NT) R7.1 … 78, 84

## [L]

LicenseManager … 17, 18, 19, 20, 21, 23, 24, 25, 26, 33, 73

LicenseManager(MainPart) … 27

Linux 版 … 24, 37, 74

## [N]

NetShepherd … 78, 84

NQS 関連 … 76, 79, 83

nssetup … 65

## [S]

Solaris 版 … 21, 36, 73

## [U]

UMS 環境 … 66

UNIX 版 … 64, 73, 76, 82, 89

## [W]

Windows 版 … 26, 40, 75, 78, 84

## [あ]

アンインストール … 72, 73, 75, 76, 78, 80

イベント連携 … 71

インストール … 9, 10, 17, 18, 20, 21, 23, 24, 25, 26, 27, 33, 35, 37, 54, 56

## [か]

環境変数 … 79

管理者ユーザ … 67

言語環境 … 66

コードワード … 30

コマンド … 64

## [さ]

実行環境 … 64

セットアップ … 64

セットアップ画面 … 56

## [た]

登録 … 30

## [な]

ネットワーク … 10

## [は]

バージョンアップ … 81, 82, 84, 88, 89, 90

パスワード … 70

パッケージ … 73, 75, 76, 78, 80

引き継ぎ … 83

ホスト ID … 16

## [ま]

メッセージ … 33

メモリ容量 … 18, 21, 24, 26

## [や]

ユーザ関連 … 76, 77, 79

## [ら]

レジストリ関連 … 79, 80

## [わ]

割り当て … 16

発行年月 April 2009

© NEC Corporation 2009